

令和 7 年度秦野市 Web アンケート調査
(第 1 回目)
報告書

令和 7 年 7 月

秦野市

目次

I	調査の概要	1
1	調査の目的	3
2	調査の設計及び回収結果	3
3	アンケートの調査項目	3
4	調査結果をみる上での注意事項	3
II	調査結果（第1回目）	5
1	属性	7
(1)	性別	7
(2)	年齢	7
(3)	居住地区	7
(4)	職業	8
2	国道246号バイパスの全線開通を見据えた渋沢丘陵周辺の土地利用	9
(1)	渋沢丘陵周辺の土地利用	10
(2)	期待する効果	11
(3)	自然環境保全の取組み	12
(4)	今後の活用方法	13
3	地域共生社会	14
(1)	生活課題を解決するための効果的な方法	14
(2)	希望する支援	15
(3)	家族以外に相談できる相手	16
(4)	「制度の狭間の課題」で悩む身近な人々	17
4	男女共同参画	18
(1)	夫婦の役割に関する考え方	18
(2)	賛成と思う理由	19
(3)	反対と思う理由	20
5	農畜産物に対する市民の意識	21
(1)	主な購入先	21
(2)	購入時の重視点	24
(3)	地産地消に関する考え方	27
6	市役所職員の対応	28
(1)	市役所職員の対応の満足度	28
(2)	不満である理由	29
7	生物多様性	30
(1)	「生物多様性」の認知度	30
8	地球温暖化対策	31

(1)	気候変動に対するリスクヘッジ	31
(2)	地球温暖化対策やライフスタイルシフトに関する情報の浸透度.....	32
(3)	暮らしにもたらす豊かさ	33

I 調査の概要

1 調査の目的

この調査は、秦野市の行政サービスの向上と、市民の行政に対する意識向上のための基礎資料とするために実施しています。

2 調査の設計及び回収結果

本調査の実施方法は、以下のとおりです。

① 調査地域	市内全域
② 調査対象	秦野市のネット調査会社の登録者
③ 対象者数	400 人（回収ベース）
④ 母集団	秦野市のネット調査会社の登録者約 3000 人
⑤ 調査方法	ネット調査
⑥ 調査期間	令和7年6月20日～6月27日
⑦ 調査機関	株式会社サーベイリサーチセンター

3 アンケートの調査項目

- ① 国道 246 号バイパスの全線開通を見据えた渋沢丘陵周辺の土地利用
- ② 地域共生社会
- ③ 男女共同参画
- ④ 農畜産物に対する市民の意識
- ⑤ 市役所職員の対応
- ⑥ 生物多様性
- ⑦ 地球温暖化対策

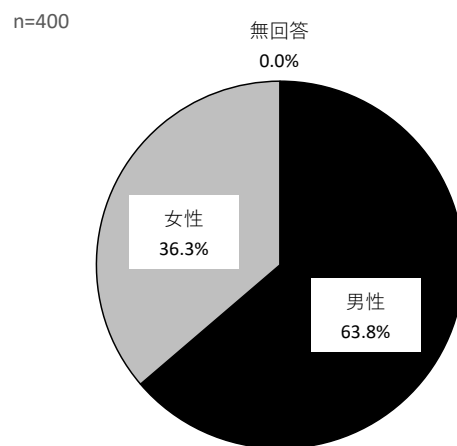
4 調査結果をみる上での注意事項

- ① 回答はn（有効回収数）を基準とした百分率で表わし、小数点第2位を四捨五入しました。このため、百分率の合計が100%にならない場合があります。
- ② 集計結果の表やグラフでは、コンピューター入力の都合上、回答の選択肢の言葉を短縮して表現している場合があります。

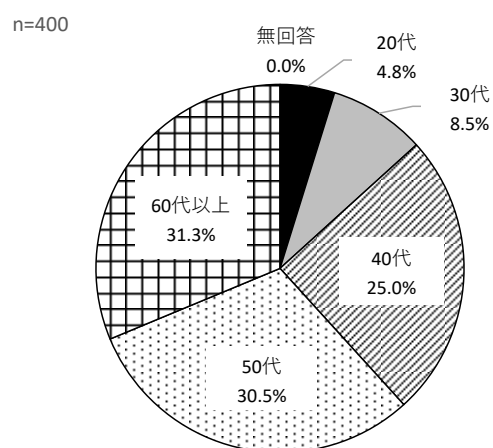
Ⅱ 調査結果（第 1 回目）

1 属性

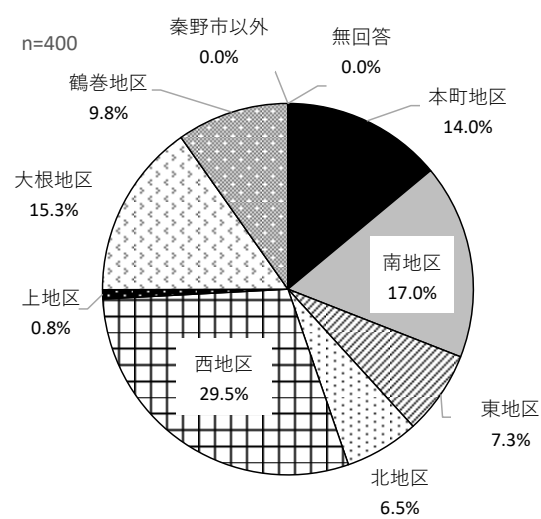
(1) 性別



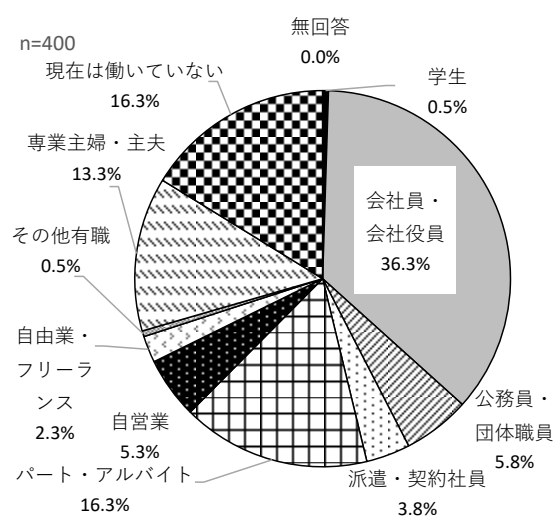
(2) 年齢



(3) 居住地区



(4) 職業



2 国道 246 号バイパスの全線開通を見据えた渋沢丘陵周辺の土地利用

圏央道の県央厚木インターチェンジ（IC）と新東名高速道路の新秦野 IC を結ぶ国道 246 号バイパスは、周辺地域の渋滞の緩和や高速ネットワークへのアクセス性の向上など、様々な整備効果が期待されています。一方、バイパス沿道の渋沢丘陵周辺には、震生湖や頭高山などの魅力ある地域資源が点在しています（下図参照）。

こうした状況を踏まえ、本市では、この地域の豊かな自然環境との調和を図りつつ、国道 246 号バイパスの全線開通を見据えた土地利用構想の策定に向けて、検討を進めています。

今後の検討に活かすため、この地域の土地利用に関するニーズなどを調査するものです。

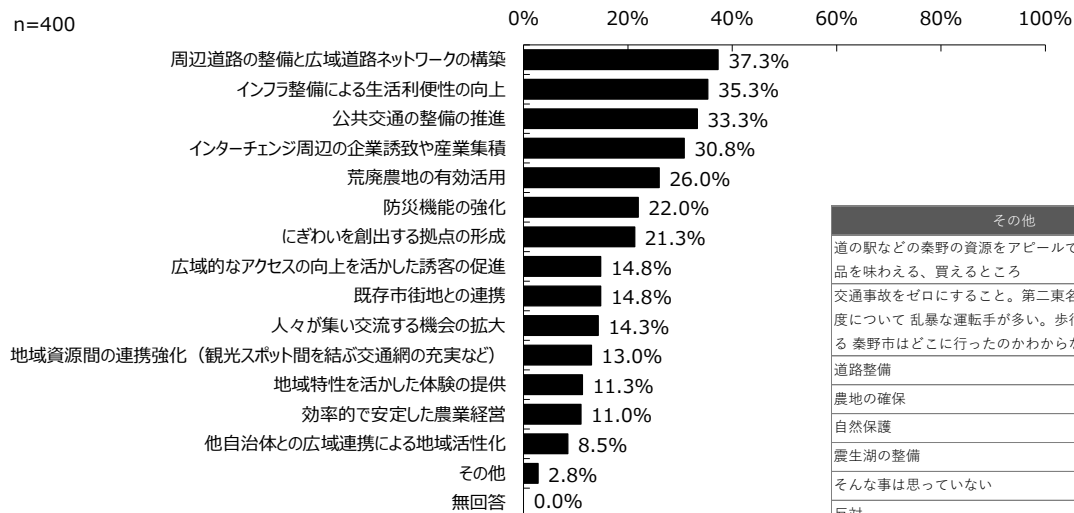


（１） 渋沢丘陵周辺の土地利用

「周辺道路の整備と広域道路ネットワークの構築」が37.3%と最も高く、次いで「インフラ整備による生活利便性の向上」が35.3%、「公共交通の整備の推進」が33.3%となっています。

□ Q1. バイパスが整備された場合、渋沢丘陵周辺で優先的に取り組んだほうがよいと思うものは何ですか。【複数回答】

n=400



その他	件数
道の駅などの秦野の資源をアピールできる場所、地場商品を味わえる、買えるところ	1
交通事故をゼロにすること。第二東名ができてから、速度について 乱暴な運転手が多い。歩行者が安全に歩ける 秦野市はどこに行ったのかわからない	1
道路整備	1
農地の確保	1
自然保護	1
農生湖の整備	1
そんな事は思っていない	1
反対	1
わからない	2
知らない	1
特になし	4

性別に見ると、「防災機能の強化」、「公共交通の整備の推進」は、女性の方が高くなっています。一方で、「インターチェンジ周辺の企業誘致や産業集積」、「周辺道路の整備と広域道路ネットワークの構築」、「既存市街地との連携」は、男性の方が高くなっています。

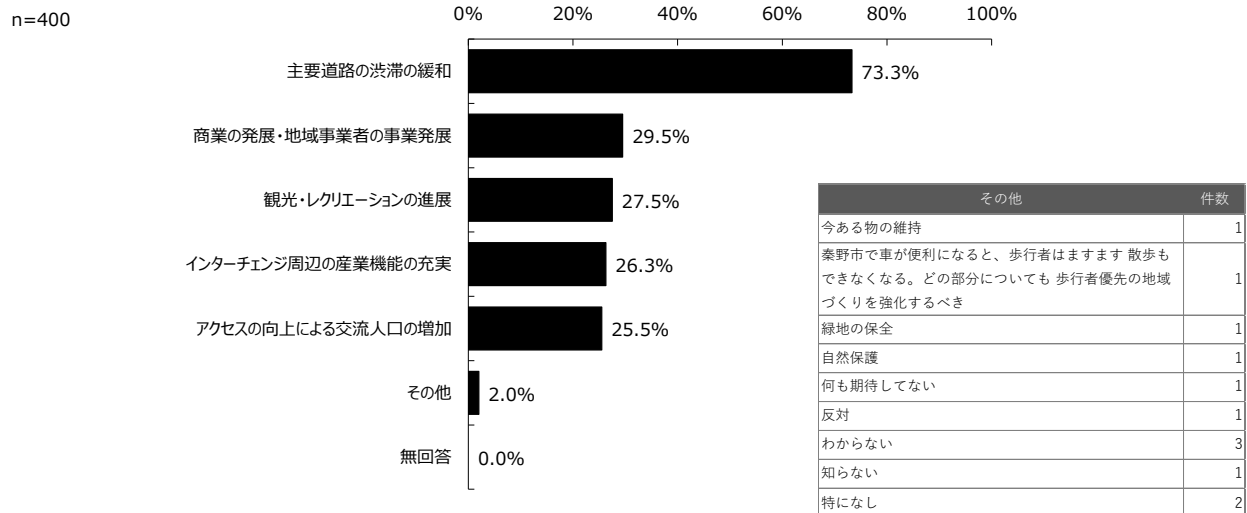
年代別に見ると、「人々が集い交流する機会の拡大」は、年代が上がるにつれて概ね低くなる傾向があります。

		渋沢丘陵周辺の土地利用																	
		全体 (実数)	周辺道路 の整備とネッ トワークの 構築	インフラ整 備による生 活利便性の 向上	公共交通 の整備の 推進	インター チェンジ周 辺の企業 誘致や産 業集積	荒廃農地 の有効活 用	防災機能 の強化	にぎわいを 創出する拠 点の形成	広域的なア クセスの向 上を活かし た誘客の促 進	既存市街 地との連携	人々が集い 交流する機 会の拡大	地域資源間 の連携強化 (観光スポ ット間を結 ぶ交通網の 充実など)	地域特性を 活かした体 験の提供	効率的で安 定した農業 経営	他自治体と の広域連携 による地域 活性化	その他	無回答	
		(%)																	
全体		400	37.3	35.3	33.3	30.8	26.0	22.0	21.3	14.8	14.8	14.3	13.0	11.3	11.0	8.5	2.8	-	
性別	男性	255	39.6	35.7	31.0	33.3	25.5	18.4	20.8	15.3	16.9	13.7	12.2	11.4	11.8	8.6	3.1	-	
	女性	145	33.1	34.5	37.2	26.2	26.9	28.3	22.1	13.8	11.0	15.2	14.5	11.0	9.7	8.3	2.1	-	
年代	20代	19	42.1	57.9	47.4	36.8	15.8	47.4	26.3	21.1	26.3	36.8	26.3	10.5	15.8	21.1	-	-	
	30代	34	26.5	35.3	29.4	35.3	23.5	23.5	23.5	11.8	8.8	26.5	8.8	14.7	20.6	8.8	2.9	-	
	40代	100	26.0	36.0	36.0	29.0	32.0	27.0	26.0	11.0	11.0	21.0	12.0	12.0	13.0	11.0	1.0	-	
	50代	122	37.7	36.9	31.1	35.2	21.3	18.9	20.5	13.9	12.3	9.8	14.8	9.0	8.2	6.6	4.9	-	
	60代以上	125	48.0	29.6	32.0	25.6	28.0	16.8	16.8	18.4	20.0	6.4	11.2	12.0	8.8	6.4	2.4	-	
性別 × 年代	男性計	255	39.6	35.7	31.0	33.3	25.5	18.4	20.8	15.3	16.9	13.7	12.2	11.4	11.8	8.6	3.1	-	
	20代	10	50.0	50.0	50.0	30.0	20.0	60.0	20.0	30.0	40.0	20.0	30.0	10.0	20.0	30.0	-	-	
	30代	14	28.6	28.6	21.4	50.0	28.6	21.4	14.3	14.3	14.3	21.4	-	14.3	28.6	-	7.1	-	
	40代	55	20.0	40.0	27.3	36.4	27.3	21.8	30.9	9.1	10.9	27.3	9.1	10.9	12.7	12.7	1.8	-	
	50代	83	42.2	43.4	33.7	37.3	21.7	15.7	20.5	14.5	13.3	10.8	15.7	8.4	10.8	7.2	3.8	-	
	60代以上	93	49.5	25.8	30.1	25.8	28.0	14.0	16.1	18.3	21.5	6.5	10.8	14.0	8.6	6.5	3.2	-	
	女性計	145	33.1	34.5	37.2	26.2	26.9	28.3	22.1	13.8	11.0	15.2	14.5	11.0	9.7	8.3	2.1	-	
	20代	9	33.3	66.7	44.4	44.4	11.1	33.3	33.3	11.1	11.1	55.6	22.2	11.1	11.1	11.1	-	-	
	30代	20	25.0	40.0	35.0	25.0	20.0	25.0	30.0	10.0	5.0	30.0	15.0	15.0	15.0	15.0	-	-	
	40代	45	33.3	31.1	46.7	20.0	37.8	33.3	20.0	13.3	11.1	13.3	15.6	13.3	13.3	8.9	-	-	
	50代	39	28.2	23.1	25.6	30.8	20.5	25.6	20.5	12.8	10.3	7.7	12.8	10.3	2.6	5.1	7.7	-	
	60代以上	32	43.8	40.6	37.5	25.0	28.1	25.0	18.8	18.8	15.6	6.3	12.5	6.3	9.4	6.3	-	-	
職業	会社員、公務員、団体職員	168	38.1	36.9	33.9	36.3	22.6	23.8	24.4	14.3	14.3	19.6	13.1	12.5	13.1	6.5	0.6	-	
	派遣、契約社員、パート・アルバイト	80	31.3	37.5	36.3	35.0	25.0	10.0	21.3	13.8	13.8	10.0	11.3	6.3	6.3	7.5	3.8	-	
	自営業、自由業、その他	32	31.3	31.3	18.8	25.0	28.1	12.5	18.8	6.3	6.3	12.5	6.3	6.3	6.3	6.3	12.5	-	
	専業主婦・主夫	53	34.0	30.2	41.5	22.6	37.7	39.6	17.0	15.1	11.3	15.1	17.0	13.2	17.0	7.5	-	-	
	学生・無職	67	47.8	34.3	28.4	20.9	25.4	22.4	17.9	20.9	23.9	6.0	14.9	14.9	9.0	16.4	4.5	-	

(2) 期待する効果

「主要道路の渋滞の緩和」が73.3%と最も高く、次いで「商業の発展・地域事業者の事業発展」が29.5%、「観光・レクリエーションの進展」が27.5%となっています。

□ Q2. バイパスが整備された場合、渋沢丘陵周辺へどのような効果を期待しますか。[複数回答]



年代別に見ると、「商業の発展・地域事業者の事業発展」は、年代が上がるにつれて概ね低くなる傾向があります。

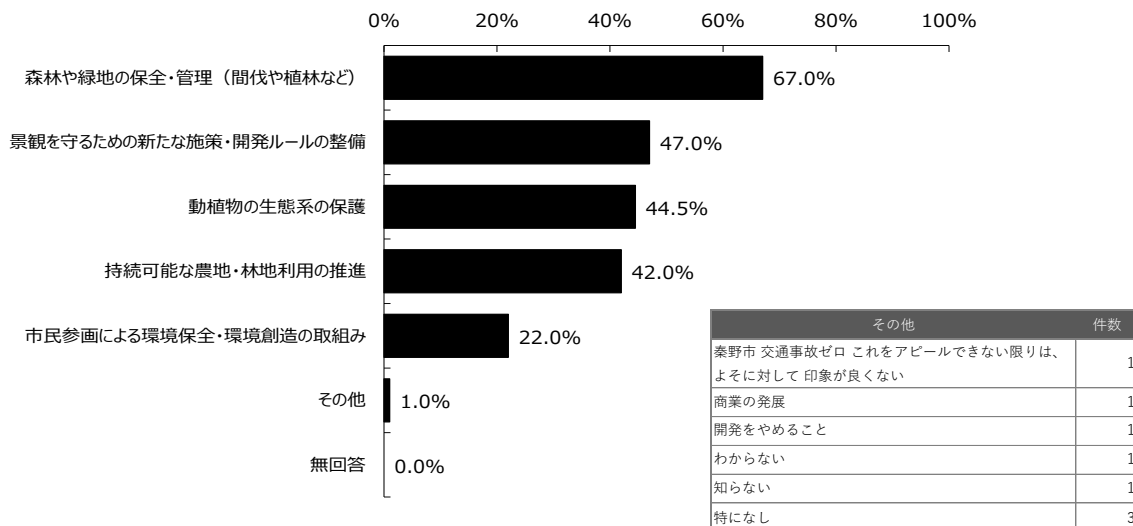
		全体 (実数)	期待する効果						
			主要道路 の渋滞の 緩和	商業の発 展・地域事 業者の事 業発展	観光・レクリ エーション の進展	インター チェンジ周 辺の産業 機能の充 実	アクセスの 向上による 交流人口 の増加	その他	無回答
(%)									
全体		400	73.3	29.5	27.5	26.3	25.5	2.0	-
性別	男性	255	72.9	29.0	25.9	27.5	25.9	2.4	-
	女性	145	73.8	30.3	30.3	24.1	24.8	1.4	-
年代	20代	19	84.2	57.9	31.6	36.8	31.6	-	-
	30代	34	79.4	32.4	20.6	20.6	35.3	2.9	-
	40代	100	69.0	32.0	27.0	23.0	25.0	2.0	-
	50代	122	72.1	30.3	29.5	28.7	27.0	2.5	-
	60代以上	125	74.4	21.6	27.2	26.4	20.8	1.6	-
性別 × 年代	男性計	255	72.9	29.0	25.9	27.5	25.9	2.4	-
	20代	10	100.0	40.0	20.0	40.0	50.0	-	-
	30代	14	71.4	50.0	21.4	35.7	42.9	7.1	-
	40代	55	58.2	30.9	25.5	27.3	27.3	1.8	-
	50代	83	75.9	32.5	26.5	26.5	30.1	2.4	-
	60代以上	93	76.3	20.4	26.9	25.8	16.1	2.2	-
	女性計	145	73.8	30.3	30.3	24.1	24.8	1.4	-
	20代	9	66.7	77.8	44.4	33.3	11.1	-	-
	30代	20	85.0	20.0	20.0	10.0	30.0	-	-
	40代	45	82.2	33.3	28.9	17.8	22.2	2.2	-
	50代	39	64.1	25.6	35.9	33.3	20.5	2.6	-
	60代以上	32	68.8	25.0	28.1	28.1	34.4	-	-
職業	会社員、公務員、団体職員	168	73.8	33.9	28.0	26.8	32.1	0.6	-
	派遣、契約社員、パート・アルバイト	80	71.3	25.0	27.5	30.0	20.0	1.3	-
	自営業、自由業、その他	32	62.5	21.9	28.1	12.5	18.8	12.5	-
	専業主婦・主夫	53	71.7	39.6	30.2	30.2	26.4	-	-
	学生、無職	67	80.6	19.4	23.9	23.9	17.9	3.0	-

(3) 自然環境保全の取組み

「森林や緑地の保全・管理（間伐や植林など）」が67.0%と最も高く、次いで「景観を守るための新たな施策・開発ルールの整備」が47.0%、「動植物の生態系の保護」が44.5%となっています。

□ Q3. 渋沢丘陵周辺の豊かな自然環境を保全するために、どのような取組みが必要だと思いますか。【複数回答】

n=400



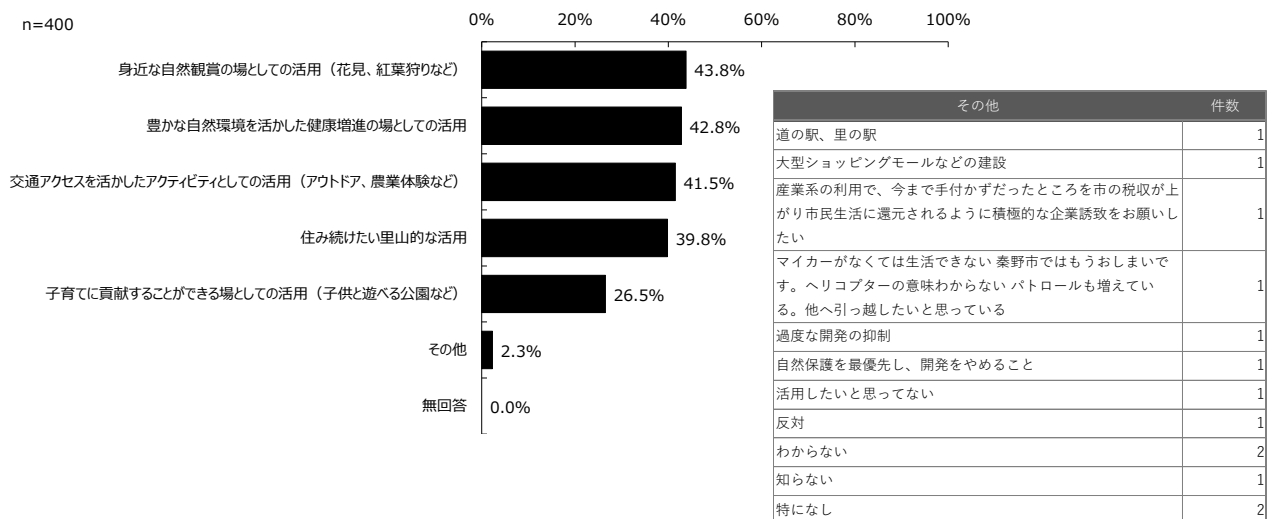
性別に見ると、「市民参画による環境保全・環境創造の取組み」、「動植物の生態系の保護」は、女性の方が高くなっています。一方で、「持続可能な農地・林地利用の推進」は、男性の方が高くなっています。

		全体 (実数)	自然環境保全の取組み						その他	無回答
			森林や緑地の保全・管理(間伐や植林など)	景観を守るための新たな施策・開発ルールの整備	動植物の生態系の保護	持続可能な農地・林地利用の推進	市民参画による環境保全・環境創造の取組み			
(%)										
全体		400	67.0	47.0	44.5	42.0	22.0	1.0	-	
性別	男性	255	67.5	45.9	41.2	45.1	18.0	1.2	-	
	女性	145	66.2	49.0	50.3	36.6	29.0	0.7	-	
年代	20代	19	68.4	52.6	57.9	63.2	47.4	-	-	
	30代	34	64.7	41.2	44.1	44.1	26.5	-	-	
	40代	100	65.0	53.0	48.0	44.0	21.0	1.0	-	
	50代	122	69.7	38.5	41.8	41.0	18.9	2.5	-	
	60代以上	125	66.4	51.2	42.4	37.6	20.8	-	-	
性別 × 年代	男性計	255	67.5	45.9	41.2	45.1	18.0	1.2	-	
	20代	10	90.0	50.0	50.0	70.0	40.0	-	-	
	30代	14	64.3	35.7	57.1	50.0	14.3	-	-	
	40代	55	60.0	49.1	38.2	43.6	21.8	1.8	-	
	50代	83	67.5	36.1	36.1	45.8	16.9	2.4	-	
	60代以上	93	69.9	53.8	44.1	41.9	15.1	-	-	
	女性計	145	66.2	49.0	50.3	36.6	29.0	0.7	-	
	20代	9	44.4	55.6	66.7	55.6	55.6	-	-	
	30代	20	65.0	45.0	35.0	40.0	35.0	-	-	
	40代	45	71.1	57.8	60.0	44.4	20.0	-	-	
	50代	39	74.4	43.6	53.8	30.8	23.1	2.6	-	
職業	60代以上	32	56.3	43.8	37.5	25.0	37.5	-	-	
	会社員、公務員、団体職員	168	65.5	45.2	41.7	44.0	17.9	0.6	-	
	派遣、契約社員、パート・アルバイト	80	62.5	50.0	48.8	32.5	27.5	1.3	-	
	自営業、自由業、その他	32	68.8	37.5	43.8	53.1	18.8	6.3	-	
	専業主婦・主夫	53	69.8	49.1	49.1	43.4	34.0	-	-	
	学生、無職	67	73.1	50.7	43.3	41.8	17.9	-	-	

(4) 今後の活用方法

「身近な自然観賞の場としての活用（花見、紅葉狩りなど）」が43.8%と最も高く、次いで「豊かな自然環境を活かした健康増進の場としての活用」が42.8%、「交通アクセスを活かしたアクティビティとしての活用（アウトドア、農業体験など）」が41.5%となっています。

□ Q4. バイパス整備により、渋沢丘陵周辺の交通アクセスがこれまで以上に高まることになります。今後渋沢丘陵周辺をどのように活用したいですか。〔複数回答〕



性別に見ると、「身近な自然観賞の場としての活用（花見、紅葉狩りなど）」、「子育てに貢献することができる場としての活用（子供と遊べる公園など）」は、女性の方が高くなっています。

年代別に見ると、「子育てに貢献することができる場としての活用（子供と遊べる公園など）」は、年代が上がるにつれて概ね低くなる傾向があります。

		全体 (実数)	今後の活用方法							無回答
			身近な自然 観賞の場と しての活用 (花見、紅葉狩りなど)	豊かな自然 環境を活か した健康増 進の場とし ての活用	交通アクセ スを活かし たアクティ ビティとし ての活用(ア ウトドア、農 業体験など)	住み続けたい 里山的な 活用	子育てに貢 献すること ができる場 としての活 用(子供と 遊べる公園 など)	その他		
(%)										
全体		400	43.8	42.8	41.5	39.8	26.5	2.3	-	
性別	男性	255	37.3	43.5	42.4	38.4	22.7	2.4	-	
	女性	145	55.2	41.4	40.0	42.1	33.1	2.1	-	
年代	20代	19	36.8	36.8	52.6	42.1	63.2	-	-	
	30代	34	41.2	41.2	35.3	38.2	38.2	2.9	-	
	40代	100	44.0	41.0	41.0	43.0	28.0	2.0	-	
	50代	122	43.4	45.9	45.9	37.7	22.1	3.3	-	
	60代以上	125	45.6	42.4	37.6	39.2	20.8	1.6	-	
性別 × 年代	男性計	255	37.3	43.5	42.4	38.4	22.7	2.4	-	
	20代	10	30.0	50.0	50.0	40.0	60.0	-	-	
	30代	14	21.4	42.9	35.7	42.9	28.6	7.1	-	
	40代	55	34.5	34.5	43.6	40.0	25.5	1.8	-	
	50代	83	36.1	48.2	50.6	33.7	21.7	2.4	-	
	60代以上	93	43.0	44.1	34.4	40.9	17.2	2.2	-	
	女性計	145	55.2	41.4	40.0	42.1	33.1	2.1	-	
	20代	9	44.4	22.2	55.6	44.4	66.7	-	-	
	30代	20	55.0	40.0	35.0	35.0	45.0	-	-	
	40代	45	55.6	48.9	37.8	46.7	31.1	2.2	-	
職業	50代	39	59.0	41.0	35.9	46.2	23.1	5.1	-	
	60代以上	32	53.1	37.5	46.9	34.4	31.3	-	-	
	会社員、公務員、団体職員	168	36.3	44.6	42.9	38.1	31.5	1.2	-	
	派遣、契約社員、パート・アルバイト	80	51.3	31.3	48.8	37.5	26.3	2.5	-	
	自営業、自由業、その他	32	34.4	50.0	31.3	43.8	9.4	9.4	-	
	専業主婦・主夫	53	58.5	47.2	39.6	37.7	34.0	-	-	
		学生、無職	67	46.3	44.8	35.8	46.3	16.4	3.0	

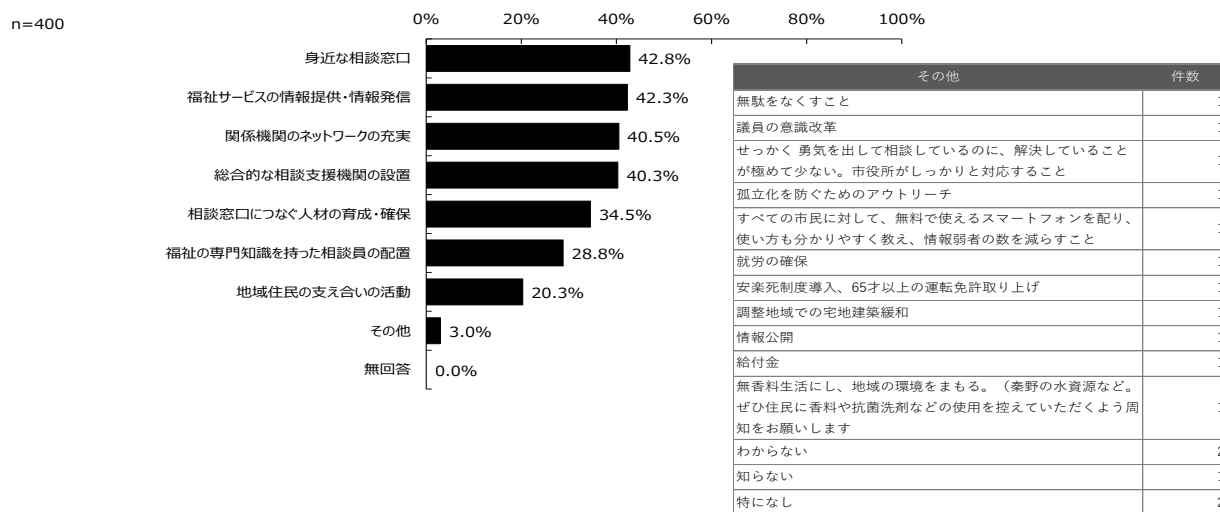
3 地域共生社会

人口減少、少子・超高齢化社会が進行し、地域の絆の希薄化、高齢者の社会的な孤立など、地域を取り巻く環境は大きく変化しています。この中で、子どもから高齢者、障害者、生活困窮者まで、全ての人が互いに尊重され、共に支え合うことで、豊かに安心して暮らせる「地域共生社会」の実現に向け、地域生活課題の現状を調査するものです。

(1) 生活課題を解決するための効果的な方法

「身近な相談窓口」が42.8%と最も高く、次いで「福祉サービスの情報提供・情報発信」が42.3%、「関係機関のネットワークの充実」が40.5%となっています。

□ Q5. 地域の様々な生活課題を解決するための効果的な方法は何だと思いますか。【複数回答】



性別に見ると、「福祉サービスの情報提供・情報発信」は、女性の方が高くなっています。一方で、「総合的な相談支援機関の設置」は、男性の方が高くなっています。

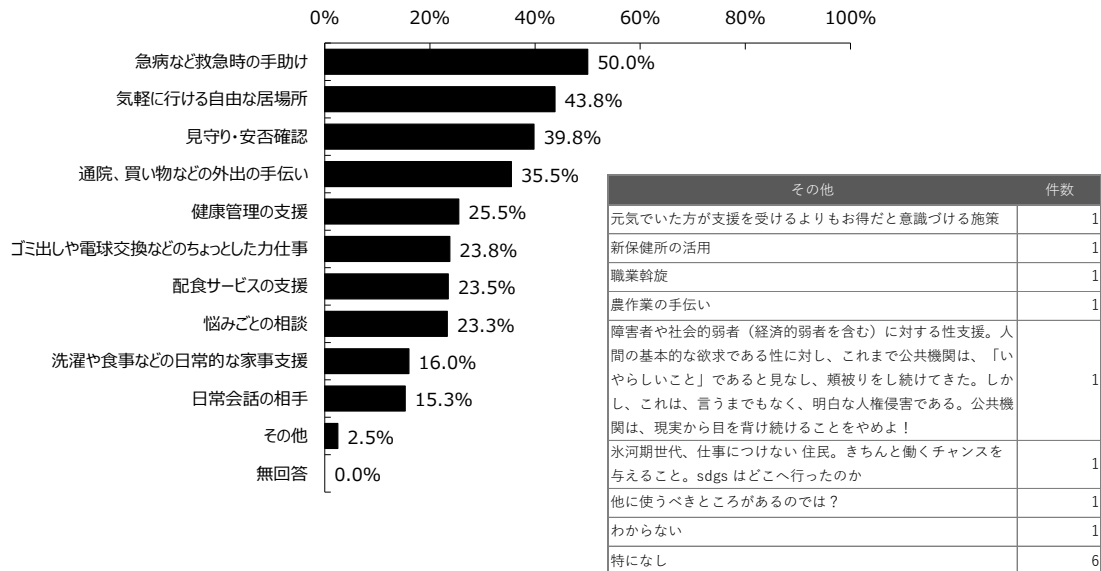
		全体 (実数)	生活課題を解決するための効果的な方法									その他	無回答
			身近な相談 窓口	福祉サービ スの情報提 供・情報発 信	関係機関 のネット ワークの充 実	総合的な相 談支援機 関の設置	相談窓口につなぐ人材 の育成・確 保	福祉の専 門知識を 持った相談 員の配置	地域住民 の支え合い の活動				
		(%)											
全体		400	42.8	42.3	40.5	40.3	34.5	28.8	20.3	3.0	-	-	
性別	男性	255	42.0	36.9	39.6	42.7	36.1	29.0	20.8	3.5	-	-	
	女性	145	44.1	51.7	42.1	35.9	31.7	28.3	19.3	2.1	-	-	
年代	20代	19	47.4	36.8	52.6	47.4	36.8	52.6	15.8	-	-	-	
	30代	34	52.9	44.1	41.2	32.4	26.5	17.6	29.4	2.9	-	-	
	40代	100	46.0	44.0	42.0	36.0	40.0	31.0	15.0	3.0	-	-	
	50代	122	41.0	38.5	40.2	46.7	36.1	30.3	26.2	4.1	-	-	
	60代以上	125	38.4	44.8	37.6	38.4	30.4	24.8	16.8	2.4	-	-	
性別 × 年代	男性計	255	42.0	36.9	39.6	42.7	36.1	29.0	20.8	3.5	-	-	
	20代	10	40.0	30.0	60.0	60.0	40.0	50.0	20.0	-	-	-	
	30代	14	50.0	57.1	35.7	42.9	28.6	21.4	35.7	7.1	-	-	
	40代	55	47.3	38.2	36.4	40.0	41.8	34.5	14.5	1.8	-	-	
	50代	83	38.6	33.7	42.2	44.6	36.1	28.9	26.5	4.8	-	-	
	60代以上	93	40.9	36.6	37.6	40.9	33.3	24.7	17.2	3.2	-	-	
	女性計	145	44.1	51.7	42.1	35.9	31.7	28.3	19.3	2.1	-	-	
	20代	9	55.6	44.4	44.4	33.3	33.3	55.6	11.1	-	-	-	
	30代	20	55.0	35.0	45.0	25.0	25.0	15.0	25.0	-	-	-	
	40代	45	44.4	51.1	48.9	31.1	37.8	26.7	15.6	4.4	-	-	
	50代	39	46.2	48.7	35.9	51.3	35.9	33.3	25.6	2.6	-	-	
60代以上	32	31.3	68.8	37.5	31.3	21.9	25.0	15.6	-	-	-		
職業	会社員、公務員、団体職員	168	44.6	39.9	41.7	40.5	37.5	31.0	22.6	1.2	-	-	
	派遣、契約社員、パート・アルバイト	80	38.8	42.5	36.3	37.5	22.5	21.3	13.8	2.5	-	-	
	自営業、自由業、その他	32	28.1	40.6	34.4	40.6	34.4	28.1	18.8	12.5	-	-	
	専業主婦・主夫	53	52.8	52.8	45.3	39.6	41.5	35.8	17.0	1.9	-	-	
	学生、無職	67	41.8	40.3	41.8	43.3	35.8	26.9	25.4	4.5	-	-	

(2) 希望する支援

「急病など救急時の手助け」が50.0%と最も高く、次いで「気軽に行ける自由な居場所」が43.8%、「見守り・安否確認」が39.8%となっています。

□ Q6. あったらいいなと思う支援は何ですか。【複数回答】

n=400



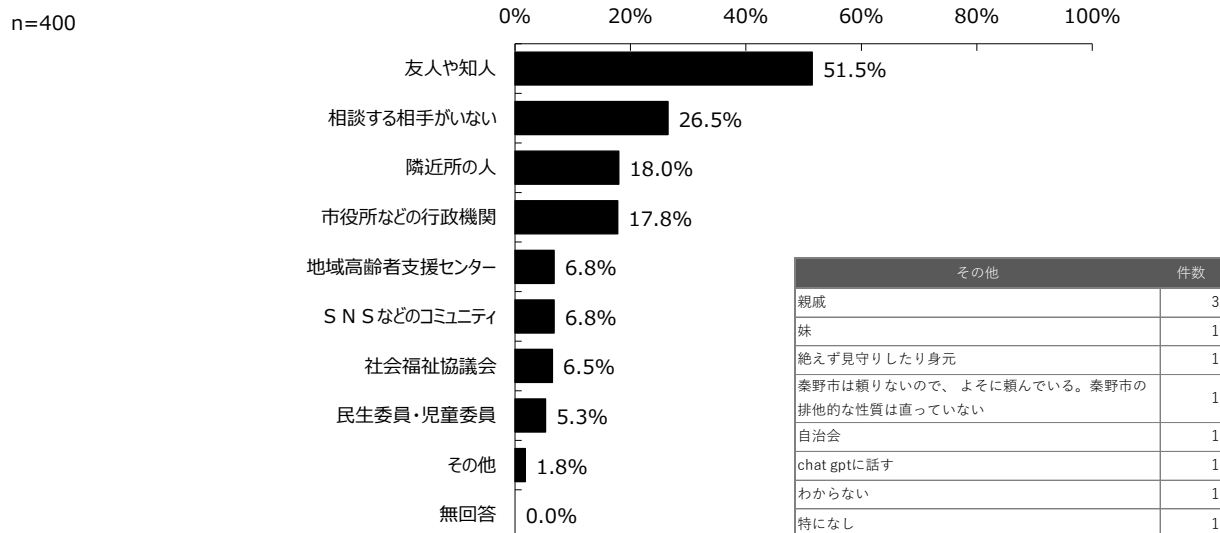
性別に見ると、「気軽に行ける自由な居場所」、「通院、買い物などの外出の手伝い」、「急病など救急時の手助け」、「配食サービスの支援」、「洗濯や食事などの日常的な家事支援」は、女性の方が高くなっています。一方で、「健康管理の支援」は、男性の方が高くなっています。

		全体 (実数)	希望する支援											無回答
			急病など救 急時の手 助け	気軽に行ける 自由な居 場所	見守り・安 否確認	通院、買い 物などの外 出の手伝い	健康管理 の支援	ゴミ出しや 電球交換な どのちょっ とした力仕 事	配食サービ スの支援	悩みごとの 相談	洗濯や食 事などの日 常的な家事 支援	日常会話 の相手	その他	
(%)														
全体		400	50.0	43.8	39.8	35.5	25.5	23.8	23.5	23.3	16.0	15.3	2.5	-
性別	男性	255	47.5	39.2	38.4	32.2	27.8	23.9	21.2	22.4	14.1	14.1	3.1	-
	女性	145	54.5	51.7	42.1	41.4	21.4	23.4	27.6	24.8	19.3	17.2	1.4	-
年代	20代	19	68.4	57.9	63.2	31.6	21.1	26.3	31.6	31.6	26.3	21.1	5.3	-
	30代	34	35.3	38.2	41.2	32.4	11.8	26.5	8.8	26.5	26.5	20.6	-	-
	40代	100	54.0	43.0	39.0	38.0	31.0	29.0	29.0	29.0	16.0	18.0	2.0	-
	50代	122	50.8	44.3	41.0	33.6	24.6	18.9	24.6	25.4	18.0	18.9	1.6	-
	60代以上	125	47.2	43.2	35.2	36.8	26.4	23.2	20.8	14.4	9.6	7.2	4.0	-
	男性計	255	47.5	39.2	38.4	32.2	27.8	23.9	21.2	22.4	14.1	14.1	3.1	-
性別 × 年代	20代	10	70.0	60.0	50.0	40.0	20.0	30.0	30.0	20.0	30.0	30.0	10.0	-
	30代	14	28.6	21.4	35.7	42.9	14.3	28.6	7.1	28.6	28.6	21.4	-	-
	40代	55	49.1	34.5	32.7	30.9	38.2	32.7	25.5	30.9	12.7	16.4	3.6	-
	50代	83	45.8	43.4	42.2	28.9	27.7	19.3	21.7	22.9	16.9	18.1	2.4	-
	60代以上	93	48.4	38.7	37.6	33.3	24.7	21.5	19.4	16.1	8.6	6.5	3.2	-
	女性計	145	54.5	51.7	42.1	41.4	21.4	23.4	27.6	24.8	19.3	17.2	1.4	-
	20代	9	66.7	55.6	77.8	22.2	22.2	22.2	33.3	44.4	22.2	11.1	-	-
	30代	20	40.0	50.0	45.0	25.0	10.0	25.0	10.0	25.0	25.0	20.0	-	-
	40代	45	60.0	53.3	46.7	46.7	22.2	24.4	33.3	26.7	20.0	20.0	-	-
	50代	39	61.5	46.2	38.5	43.6	17.9	17.9	30.8	30.8	20.5	20.5	-	-
	60代以上	32	43.8	56.3	28.1	46.9	31.3	28.1	25.0	9.4	12.5	9.4	6.3	-
職業	会社員、公務員、団体職員	168	51.2	41.7	41.7	33.3	24.4	26.2	23.8	23.2	16.1	19.6	1.2	-
	派遣、契約社員、パート・アルバイト	80	48.8	42.5	41.3	38.8	22.5	21.3	23.8	20.0	16.3	13.8	2.5	-
	自営業、自由業、その他	32	46.9	37.5	34.4	31.3	28.1	15.6	15.6	25.0	12.5	6.3	3.1	-
	専業主婦・主夫	53	49.1	54.7	41.5	41.5	26.4	30.2	35.8	32.1	24.5	18.9	1.9	-
	学生、無職	67	50.7	44.8	34.3	34.3	29.9	19.4	16.4	19.4	10.4	7.5	6.0	-

(3) 家族以外に相談できる相手

「友人や知人」が51.5%と最も高く、次いで「相談する相手がいない」が26.5%、「隣近所の人」が18.0%となっています。

□ Q7. 困ったときや不安を感じたとき、家族以外に相談できる相手は誰(どこ)ですか。【複数回答】



性別に見ると、「友人や知人」は女性の方が高くなっています。一方で、「隣近所の人」、「市役所などの行政機関」は、男性の方が高くなっています。

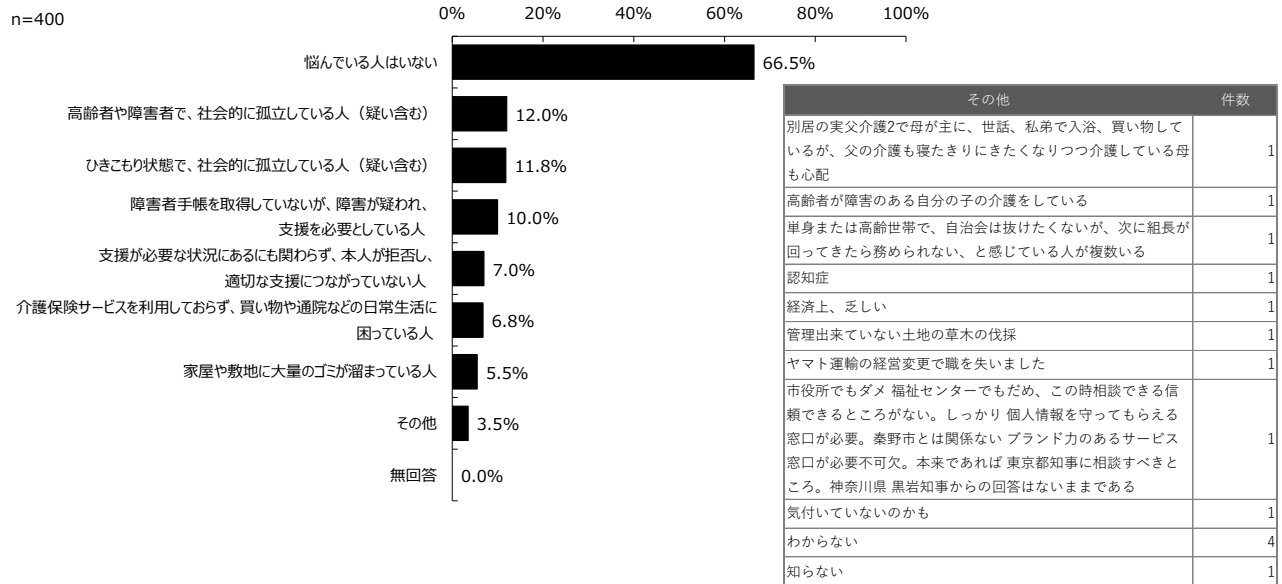
年代別に見ると、「隣近所の人」は、年代が上がるにつれて概ね高くなる傾向があります。

		全体 (実数)	家族以外に相談できる相手									その他	無回答
			友人や知人	相談する相手がいない	隣近所の人	市役所などの行政機関	地域高齢者支援センター	SNSなどのコミュニティ	社会福祉協議会	民生委員・児童委員			
性別	全体	400	51.5	26.5	18.0	17.8	6.8	6.8	6.5	5.3	1.8	-	
	男性	255	46.7	27.8	20.4	19.6	6.7	6.3	7.1	6.3	2.0	-	
年代	女性	145	60.0	24.1	13.8	14.5	6.9	7.6	5.5	3.4	1.4	-	
	20代	19	47.4	21.1	5.3	15.8	5.3	26.3	5.3	10.5	5.3	-	
	30代	34	67.6	23.5	8.8	5.9	8.8	2.9	5.9	5.9	2.9	-	
	40代	100	52.0	30.0	13.0	18.0	3.0	9.0	9.0	6.0	1.0	-	
	50代	122	48.4	32.8	19.7	14.8	6.6	7.4	7.4	4.9	-	-	
	60代以上	125	50.4	19.2	24.8	24.0	9.6	2.4	4.0	4.0	3.2	-	
性別 × 年代	男性計	255	46.7	27.8	20.4	19.6	6.7	6.3	7.1	6.3	2.0	-	
	20代	10	60.0	20.0	10.0	20.0	-	20.0	10.0	20.0	-	-	
	30代	14	71.4	14.3	7.1	-	14.3	-	7.1	7.1	7.1	-	
	40代	55	47.3	32.7	12.7	18.2	3.6	12.7	9.1	9.1	1.8	-	
	50代	83	42.2	33.7	19.3	14.5	3.6	7.2	9.6	4.8	-	-	
	60代以上	93	45.2	22.6	29.0	28.0	10.8	1.1	3.2	4.3	3.2	-	
	女性計	145	60.0	24.1	13.8	14.5	6.9	7.6	5.5	3.4	1.4	-	
	20代	9	33.3	22.2	-	11.1	11.1	33.3	-	-	11.1	-	
	30代	20	65.0	30.0	10.0	10.0	5.0	5.0	5.0	5.0	-	-	
	40代	45	57.8	26.7	13.3	17.8	2.2	4.4	8.9	2.2	-	-	
職業	50代	39	61.5	30.8	20.5	15.4	12.8	7.7	2.6	5.1	-	-	
	60代以上	32	65.6	9.4	12.5	12.5	6.3	6.3	6.3	3.1	3.1	-	
	会社員、公務員、団体職員	168	54.8	23.8	14.9	13.1	5.4	8.3	8.9	7.1	0.6	-	
	派遣、契約社員、パート・アルバイト	80	50.0	30.0	12.5	13.8	7.5	5.0	6.3	2.5	1.3	-	
	自営業、自由業、その他	32	46.9	34.4	25.0	15.6	3.1	9.4	3.1	-	3.1	-	
	専業主婦・主夫	53	60.4	22.6	20.8	20.8	9.4	7.5	3.8	3.8	1.9	-	
学生、無職		67	40.3	28.4	26.9	32.8	9.0	3.0	4.5	7.5	4.5	-	

(4) 「制度の狭間の課題」で悩む身近な人々

「悩んでいる人はいない」が66.5%と最も高く、次いで「高齢者や障害者で、社会的に孤立している人（疑い含む）」が12.0%、「ひきこもり状態で、社会的に孤立している人（疑い含む）」が11.8%となっています。

□ Q8. 身近に次のような課題(制度の狭間の課題)で悩んでいる方(回答者自身も含む)はいますか。[複数回答]



性別に見ると、「悩んでいる人はいない」は、女性の方が高くなっています。一方で、「高齢者や障害者で、社会的に孤立している人（疑い含む）」、「家屋や敷地に大量のゴミが溜まっている人」は、男性の方が高くなっています。

		全体 (実数)	「制度の狭間の課題」で悩む身近な人々								
			悩んでいる 人はいない	高齢者や 障害者で、 社会的に孤 立している 人(疑い含 む)	ひきこもり 状態で、社 会的に孤立 している人 (疑い含む)	障害者手 帳を取得し ていない が、障害が 疑われ、支 援を必要と している人	支援が必 要な状況に あるにも関 わらず、本 人が拒否し 、適切な 支援につな がっていない人	介護保険 サービスを利用してお らず、買い物や通院な どの日常生活に困って いる人	家屋や敷 地に大量の ゴミが溜 まっている 人	その他	無回答
(%)											
全体		400	66.5	12.0	11.8	10.0	7.0	6.8	5.5	3.5	-
性別	男性	255	62.7	15.3	11.8	11.8	8.2	7.8	7.5	3.5	-
	女性	145	73.1	6.2	11.7	6.9	4.8	4.8	2.1	3.4	-
年代	20代	19	68.4	21.1	15.8	10.5	10.5	5.3	10.5	5.3	-
	30代	34	73.5	11.8	17.6	8.8	2.9	8.8	5.9	2.9	-
	40代	100	64.0	11.0	12.0	15.0	12.0	6.0	10.0	3.0	-
	50代	122	65.6	14.8	13.1	9.0	3.3	8.2	3.3	2.5	-
	60代以上	125	67.2	8.8	8.0	7.2	7.2	5.6	3.2	4.8	-
性別 × 年代	男性計	255	62.7	15.3	11.8	11.8	8.2	7.8	7.5	3.5	-
	20代	10	60.0	40.0	30.0	20.0	20.0	-	20.0	-	-
	30代	14	64.3	21.4	21.4	14.3	-	7.1	7.1	7.1	-
	40代	55	56.4	14.5	12.7	18.2	16.4	7.3	14.5	1.8	-
	50代	83	63.9	18.1	12.0	10.8	2.4	12.0	4.8	2.4	-
	60代以上	93	65.6	9.7	7.5	7.5	8.6	5.4	4.3	5.4	-
	女性計	145	73.1	6.2	11.7	6.9	4.8	4.8	2.1	3.4	-
	20代	9	77.8	-	-	-	-	11.1	-	11.1	-
	30代	20	80.0	5.0	15.0	5.0	5.0	10.0	5.0	-	-
	40代	45	73.3	6.7	11.1	11.1	6.7	4.4	4.4	4.4	-
	50代	39	69.2	7.7	15.4	5.1	5.1	-	-	2.6	-
	60代以上	32	71.9	6.3	9.4	6.3	3.1	6.3	-	3.1	-
職業	会社員、公務員、団体職員	168	68.5	13.1	8.9	12.5	7.1	6.5	7.1	2.4	-
	派遣、契約社員、パート・アルバイト	80	67.5	8.8	12.5	5.0	5.0	5.0	1.3	3.8	-
	自営業、自由業、その他	32	68.8	12.5	9.4	9.4	3.1	3.1	-	6.3	-
	専業主婦・主夫	53	62.3	11.3	22.6	9.4	11.3	7.5	7.5	1.9	-
	学生、無職	67	62.7	13.4	10.4	10.4	7.5	10.4	7.5	6.0	-

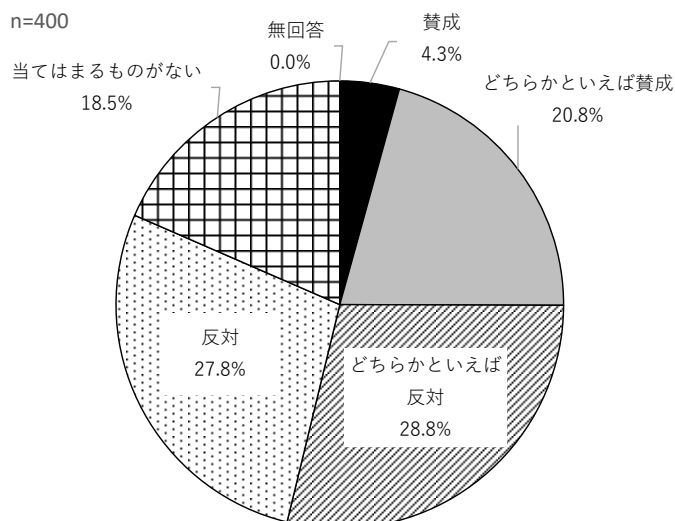
4 男女共同参画

本市の男女共同参画を推進するため、市民の意識やニーズを調査するものです。

(1) 夫婦の役割に関する考え方

「賛成」、「どちらかといえば賛成」と合わせて約 25.1%となっています。一方、「どちらかといえ
ば反対」、「反対」と合わせて約 56.6%となっています。

□ Q9.「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方をどう思いますか。[単一回答]



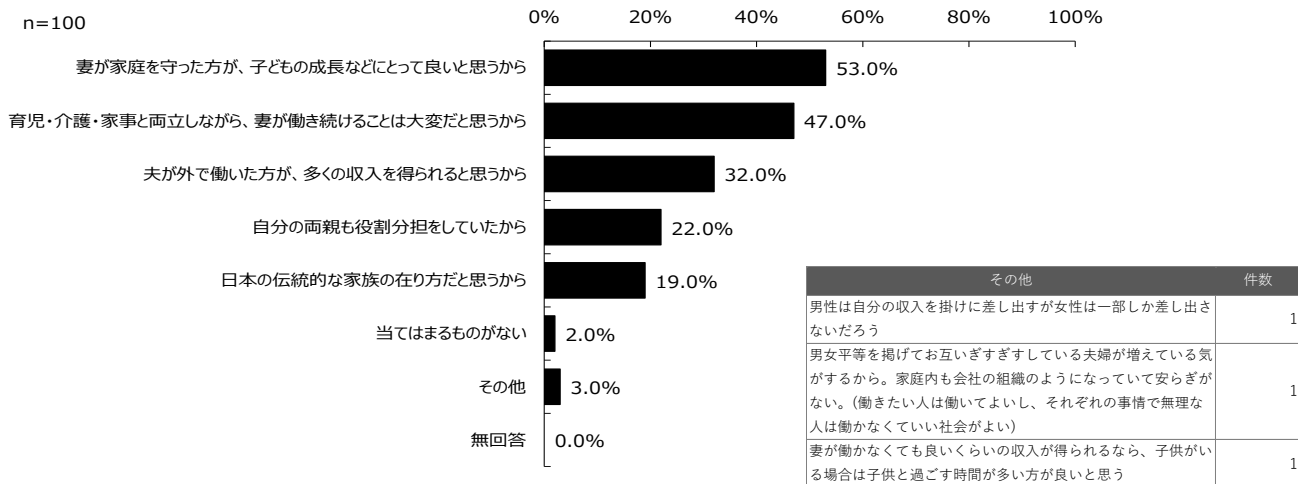
性別に見ると、「賛成」、「どちらかといえば賛成」を合わせると男性の方が高くなっています。

		全体 (実数)	夫婦の役割に関する考え方					
			賛成	どちらかとい えは賛成	どちらかとい えは反対	反対	当てはまる ものがない	無回答
(%)								
全体		400	4.3	20.8	28.8	27.8	18.5	
性別	男性	255	6.7	22.7	25.9	27.1	17.6	-
	女性	145	-	17.2	33.8	29.0	20.0	-
年代	20代	19	-	21.1	21.1	31.6	26.3	-
	30代	34	-	29.4	29.4	32.4	8.8	-
	40代	100	6.0	13.0	29.0	31.0	21.0	-
	50代	122	4.9	19.7	31.1	23.0	21.3	-
	60代以上	125	4.0	25.6	27.2	28.0	15.2	-
性別 × 年代	男性計	255	6.7	22.7	25.9	27.1	17.6	-
	20代	10	-	-	30.0	40.0	30.0	-
	30代	14	-	42.9	14.3	35.7	7.1	-
	40代	55	10.9	14.5	27.3	27.3	20.0	-
	50代	83	7.2	22.9	30.1	20.5	19.3	-
	60代以上	93	5.4	26.9	22.6	30.1	15.1	-
	女性計	145	-	17.2	33.8	29.0	20.0	-
	20代	9	-	44.4	11.1	22.2	22.2	-
	30代	20	-	20.0	40.0	30.0	10.0	-
	40代	45	-	11.1	31.1	35.6	22.2	-
	50代	39	-	12.8	33.3	28.2	25.6	-
60代以上	32	-	21.9	40.6	21.9	15.6	-	
職業	会社員、公務員、団体職員	168	4.8	22.6	26.2	28.0	18.5	-
	派遣、契約社員、パート・アルバイト	80	3.8	17.5	33.8	31.3	13.8	-
	自営業、自由業、その他	32	6.3	18.8	21.9	34.4	18.8	-
	専業主婦・主夫	53	-	22.6	34.0	18.9	24.5	-
	学生、無職	67	6.0	19.4	28.4	26.9	19.4	-

(2) 賛成と思う理由

「妻が家庭を守った方が、子どもの成長などにとって良いと思うから」が53.0%と最も高く、次いで「育児・介護・家事と両立しながら、妻が働き続けることは大変だと思うから」が47.0%、「夫が外で働いた方が、多くの収入を得られると思うから」が32.0%となっています。

□ Q10. Q9で「賛成」または「どちらかといえば賛成」を選択した方にお聞きします。賛成と思うのはなぜですか。〔複数回答〕



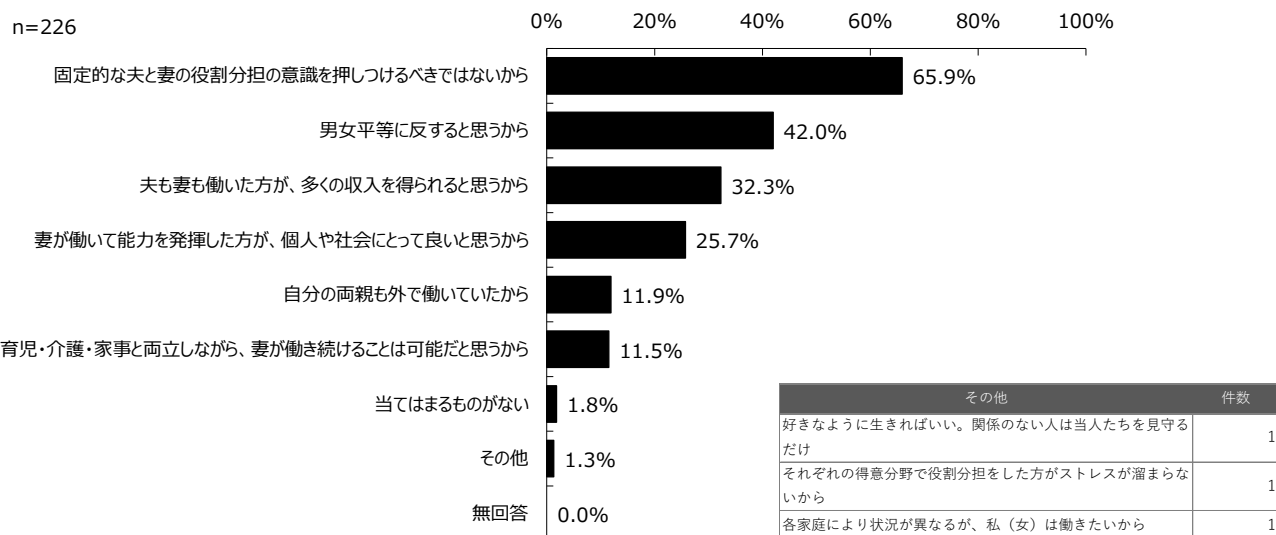
性別に見ると、「育児・介護・家事と両立しながら、妻が働き続けることは大変だと思うから」、「夫が外で働いた方が、多くの収入を得られると思うから」、「妻が家庭を守った方が、子どもの成長などにとって良いと思うから」は、女性の方が高くなっています。一方で、「自分の両親も役割分担をしていたから」、「日本の伝統的な家族の在り方だと思うから」は、男性の方が高くなっています。

		全体 (実数)	賛成と思う理由							その他	無回答
(%)			妻が家庭を守った方が、子どもの成長などにとって良いと思うから	育児・介護・家事と両立しながら、妻が働き続けることは大変だと思うから	夫が外で働いた方が、多くの収入を得られると思うから	自分の両親も役割分担をしていたから	日本の伝統的な家族の在り方だと思うから	当てはまるものがない			
全体		100	53.0	47.0	32.0	22.0	19.0	2.0	3.0	-	
性別	男性	75	49.3	38.7	26.7	26.7	21.3	2.7	1.3	-	
	女性	25	64.0	72.0	48.0	8.0	12.0	-	8.0	-	
年代	20代	4	50.0	50.0	75.0	-	-	-	25.0	-	
	30代	10	30.0	70.0	20.0	40.0	10.0	-	-	-	
	40代	19	47.4	42.1	31.6	42.1	31.6	-	-	-	
	50代	30	53.3	36.7	23.3	23.3	16.7	-	6.7	-	
	60代以上	37	62.2	51.4	37.8	8.1	18.9	5.4	-	-	
性別 × 年代	男性計	75	49.3	38.7	26.7	26.7	21.3	2.7	1.3	-	
	20代	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	30代	6	33.3	66.7	16.7	33.3	16.7	-	-	-	
	40代	14	35.7	28.6	28.6	57.1	35.7	-	-	-	
	50代	25	52.0	32.0	20.0	28.0	16.0	-	4.0	-	
	60代以上	30	56.7	43.3	33.3	10.0	20.0	6.7	-	-	
	女性計	25	64.0	72.0	48.0	8.0	12.0	-	8.0	-	
	20代	4	50.0	50.0	75.0	-	-	-	25.0	-	
	30代	4	25.0	75.0	25.0	50.0	-	-	-	-	
	40代	5	80.0	80.0	40.0	-	20.0	-	-	-	
50代	5	60.0	60.0	40.0	-	20.0	-	20.0	-		
60代以上	7	85.7	85.7	57.1	-	14.3	-	-	-		
職業	会社員、公務員、団体職員	46	50.0	37.0	28.3	34.8	19.6	2.2	2.2	-	
	派遣、契約社員、パート・アルバイト	17	47.1	47.1	23.5	-	11.8	-	-	-	
	自営業、自由業、その他	8	37.5	50.0	12.5	25.0	12.5	-	-	-	
	専業主婦・主夫	12	83.3	75.0	41.7	-	25.0	-	8.3	-	
	学生、無職	17	52.9	52.9	52.9	23.5	23.5	5.9	5.9	-	

(3) 反対と思う理由

「固定的な夫と妻の役割分担の意識を押しつけるべきではないから」が65.9%と最も高く、次いで「男女平等に反すると思うから」が42.0%、「夫も妻も働いた方が、多くの収入を得られると思うから」が32.3%となっています。

□ Q11. Q9で「どちらかといえば反対」または「反対」を選択した方にお聞きします。反対と思うのはなぜですか。〔複数回答〕



性別に見ると、「固定的な夫と妻の役割分担の意識を押しつけるべきではないから」は、女性の方が高くなっています。一方で、「夫も妻も働いた方が、多くの収入を得られると思うから」、「妻が働いて能力を発揮した方が、個人や社会にとって良いと思うから」、「男女平等に反すると思うから」は、男性の方が高くなっています。

		全体 (実数)	反対と思う理由								
			固定的な夫と妻の役割分担の意識を押しつけるべきではないから	男女平等に反すると思うから	夫も妻も働いた方が、多くの収入を得られると思うから	妻が働いて能力を発揮した方が、個人や社会にとって良いと思うから	自分の両親も外で働いていたから	育児・介護・家事と両立しながら、妻が働き続けることは可能だと思うから	当てはまるものがない	その他	無回答
全体		226	65.9	42.0	32.3	25.7	11.9	11.5	1.8	1.3	-
性別	男性	135	61.5	44.4	37.0	28.1	11.1	11.1	1.5	0.7	-
	女性	91	72.5	38.5	25.3	22.0	13.2	12.1	2.2	2.2	-
年代	20代	10	80.0	20.0	20.0	10.0	20.0	20.0	10.0	10.0	-
	30代	21	61.9	33.3	38.1	19.0	23.8	9.5	4.8	4.8	-
	40代	60	65.0	43.3	43.3	31.7	13.3	10.0	1.7	1.7	-
	50代	66	62.1	50.0	30.3	21.2	9.1	10.6	-	-	-
	60代以上	69	69.6	39.1	24.6	29.0	8.7	13.0	1.4	-	-
	男性計	135	61.5	44.4	37.0	28.1	11.1	11.1	1.5	0.7	-
性別 × 年代	20代	7	71.4	14.3	14.3	-	-	14.3	14.3	14.3	-
	30代	7	28.6	57.1	57.1	42.9	28.6	28.6	-	-	-
	40代	30	63.3	43.3	56.7	40.0	16.7	10.0	-	-	-
	50代	42	50.0	52.4	38.1	26.2	11.9	14.3	-	-	-
	60代以上	49	73.5	40.8	24.5	24.5	6.1	6.1	2.0	-	-
	女性計	91	72.5	38.5	25.3	22.0	13.2	12.1	2.2	2.2	-
	20代	3	100.0	33.3	33.3	33.3	66.7	33.3	-	-	-
	30代	14	78.6	21.4	28.6	7.1	21.4	-	7.1	7.1	-
	40代	30	66.7	43.3	30.0	23.3	10.0	10.0	3.3	3.3	-
	50代	24	83.3	45.8	16.7	12.5	4.2	4.2	-	-	-
	60代以上	20	60.0	35.0	25.0	40.0	15.0	30.0	-	-	-
職業	会社員、公務員、団体職員	91	60.4	45.1	44.0	25.3	16.5	8.8	2.2	2.2	-
	派遣、契約社員、パート・アルバイト	52	65.4	32.7	21.2	21.2	9.6	17.3	3.8	-	-
	自営業、自由業、その他	18	55.6	55.6	27.8	27.8	11.1	11.1	-	-	-
	専業主婦・主夫	28	85.7	46.4	17.9	21.4	10.7	7.1	-	3.6	-
	学生、無職	37	70.3	37.8	32.4	35.1	5.4	13.5	-	-	-

5 農畜産物に対する市民の意識

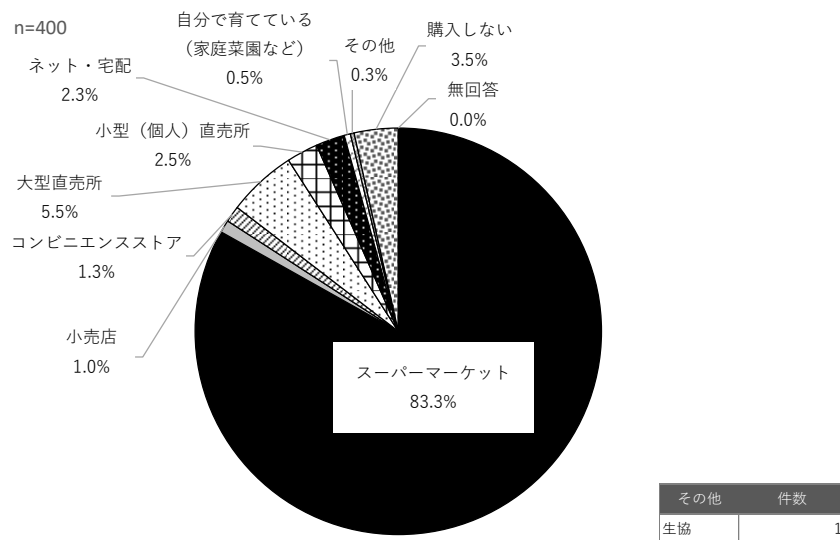
「秦野市都市農業振興計画」の改訂に伴い、今後の農業施策を検討するため、消費者としての立場から見た農畜産物に対する市民の意識を調査するものです。

(1) 主な購入先

□ Q12. 農畜産物を購入するとき、最も頻度が高い購入先はどこですか。[単一回答]

1. 野菜・果実

「スーパーマーケット」が83.3%と最も高く、次いで「大型直売所」が5.5%、「小型（個人）直売所」が2.5%となっています。

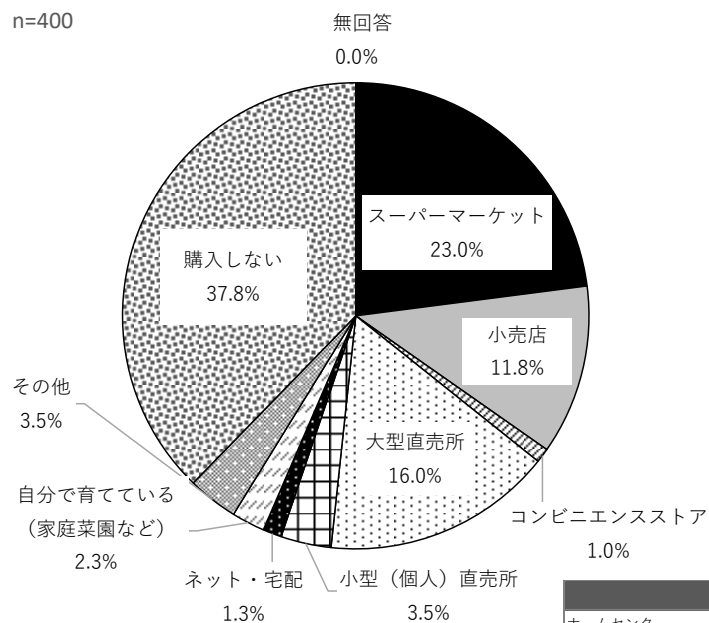


性別に見ると、「スーパーマーケット」は、女性の方が高くなっています。

		全体 (実数) (%)	主な購入先 (野菜・果実)									無回答
			スーパー マーケット	小売店	コンビニエ ンスストア	大型直売 所	小型(個 人)直売所	ネット・宅配	自分で育て ている(家 庭菜園な ど)	その他	購入しない	
性別	全体	400	83.3	1.0	1.3	5.5	2.5	2.3	0.5	0.3	3.5	-
	男性	255	80.0	1.6	2.0	5.1	2.7	2.7	0.8	0.4	4.7	-
	女性	145	89.0	-	-	6.2	2.1	1.4	-	-	1.4	-
年代	20代	19	89.5	-	-	-	-	5.3	-	-	5.3	-
	30代	34	97.1	-	-	-	-	-	2.9	-	-	-
	40代	100	79.0	1.0	1.0	6.0	-	5.0	1.0	-	7.0	-
	50代	122	81.1	1.6	2.5	4.1	4.9	1.6	-	-	4.1	-
	60代以上	125	84.0	0.8	0.8	8.8	3.2	0.8	-	0.8	0.8	-
性別 × 年代	男性計	255	80.0	1.6	2.0	5.1	2.7	2.7	0.8	0.4	4.7	-
	20代	10	80.0	-	-	-	-	10.0	-	-	10.0	-
	30代	14	92.9	-	-	-	-	-	7.1	-	-	-
	40代	55	74.5	1.8	1.8	3.6	-	5.5	1.8	-	10.9	-
	50代	83	75.9	2.4	3.6	4.8	4.8	2.4	-	-	6.0	-
	60代以上	93	84.9	1.1	1.1	7.5	3.2	1.1	-	1.1	-	-
	女性計	145	89.0	-	-	6.2	2.1	1.4	-	-	1.4	-
	20代	9	100.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	30代	20	100.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	40代	45	84.4	-	-	8.9	-	4.4	-	-	2.2	-
	50代	39	92.3	-	-	2.6	5.1	-	-	-	-	-
職業	60代以上	32	81.3	-	-	12.5	3.1	-	-	-	3.1	-
	会社員、公務員、団体職員	168	86.9	0.6	1.2	3.0	3.0	3.0	0.6	-	1.8	-
	派遣、契約社員、パート・アルバイト	80	80.0	1.3	2.5	7.5	1.3	-	1.3	-	6.3	-
	自営業、自由業、その他	32	75.0	3.1	-	3.1	-	6.3	-	3.1	9.4	-
	専業主婦・主夫	53	86.8	-	-	9.4	1.9	1.9	-	-	-	-
	学生、無職	67	79.1	1.5	1.5	7.5	4.5	1.5	-	-	4.5	-

2. 花き・・・観賞用に栽培される植物全般（切り花、鉢物など）

「スーパーマーケット」が23.0%と最も高く、次いで「大型直売所」が16.0%、「小売店」が11.8%となっています。



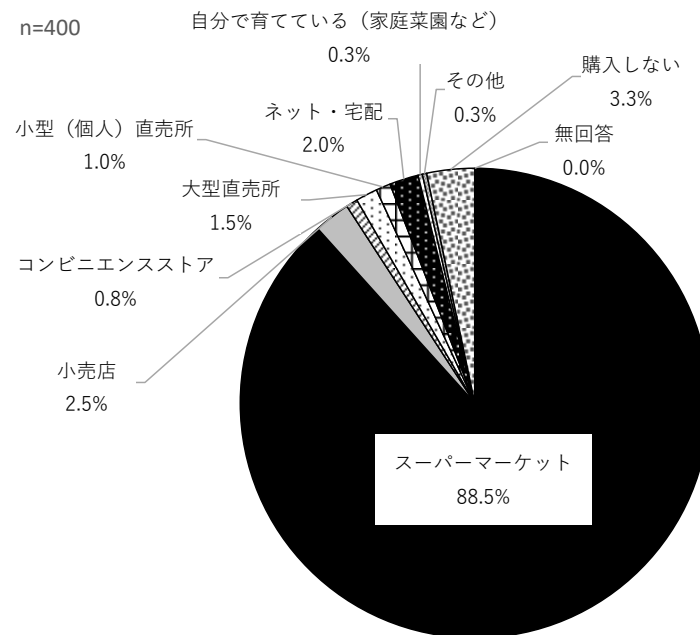
その他	件数
ホームセンター	11
フラワーショップ	2
ディスカウントストア	1
じばさんず	1
JA	1

性別・年代別では大きな傾向差は、見られませんでした。

		全体 (実数)	主な購入先(花き)									
			スーパー マーケット	小売店	コンビニエ ンスストア	大型直売 所	小型(個 人)直売所	ネット・宅配	自分で育て ている(家 庭菜園な ど)	その他	購入しない	無回答
(%)												
全体		400	23.0	11.8	1.0	16.0	3.5	1.3	2.3	3.5	37.8	
性別	男性	255	23.1	11.4	1.6	15.3	3.1	1.6	1.2	3.5	39.2	-
	女性	145	22.8	12.4	-	17.2	4.1	0.7	4.1	3.4	35.2	-
年代	20代	19	15.8	15.8	-	10.5	10.5	-	-	-	47.4	-
	30代	34	17.6	5.9	-	8.8	2.9	-	2.9	2.9	58.8	-
	40代	100	21.0	14.0	2.0	13.0	4.0	1.0	-	3.0	42.0	-
	50代	122	19.7	13.1	0.8	16.4	2.5	1.6	2.5	4.9	38.5	-
	60代以上	125	30.4	9.6	0.8	20.8	3.2	1.6	4.0	3.2	26.4	-
性別 × 年代	男性計	255	23.1	11.4	1.6	15.3	3.1	1.6	1.2	3.5	39.2	-
	20代	10	10.0	10.0	-	10.0	-	-	-	-	70.0	-
	30代	14	21.4	14.3	-	14.3	-	-	7.1	-	42.9	-
	40代	55	27.3	12.7	3.6	9.1	3.6	-	-	3.6	40.0	-
	50代	83	14.5	13.3	1.2	15.7	2.4	2.4	1.2	4.8	44.6	-
	60代以上	93	30.1	8.6	1.1	19.4	4.3	2.2	1.1	3.2	30.1	-
	女性計	145	22.8	12.4	-	17.2	4.1	0.7	4.1	3.4	35.2	-
	20代	9	22.2	22.2	-	11.1	22.2	-	-	-	22.2	-
	30代	20	15.0	-	-	5.0	5.0	-	-	5.0	70.0	-
	40代	45	13.3	15.6	-	17.8	4.4	2.2	-	2.2	44.4	-
	50代	39	30.8	12.8	-	17.9	2.6	-	5.1	5.1	25.6	-
60代以上	32	31.3	12.5	-	25.0	-	-	12.5	3.1	15.6	-	
職業	会社員、公務員、団体職員	168	22.0	11.3	1.8	14.3	2.4	1.8	1.8	3.0	41.7	-
	派遣、契約社員、パート・アルバイト	80	17.5	17.5	1.3	15.0	7.5	2.5	2.5	5.0	31.3	-
	自営業、自由業、その他	32	25.0	15.6	-	12.5	-	-	-	-	46.9	-
	専業主婦・主夫	53	24.5	9.4	-	24.5	5.7	-	3.8	3.8	28.3	-
	学生、無職	67	29.9	6.0	-	16.4	1.5	-	3.0	4.5	38.8	-

3. 畜産加工品・・・肉・乳・卵などの畜産物を原料として、加工処理した食品（ハム、チーズなど）

「スーパーマーケット」が88.5%と最も高く、次いで「小売店」が2.5%、「ネット・宅配」が2.0%となっています。



性別に見ると、「スーパーマーケット」は、女性の方が高くなっています。

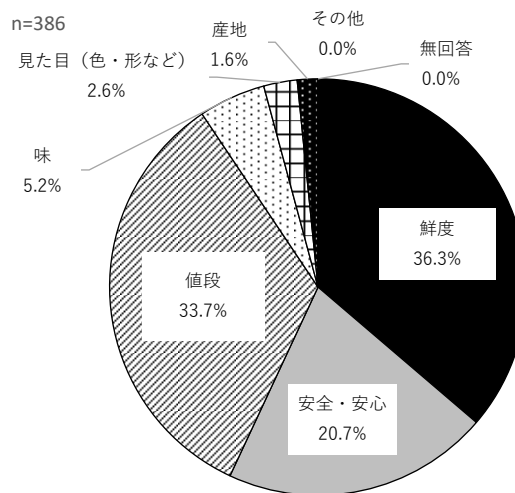
		(%)	全体 (実数)	主な購入先(畜産加工品)									
				スーパー マーケット	小売店	コンビニエ ンスストア	大型直売 所	小型(個 人)直売所	ネット・宅配	自分で育て ている(家 庭菜園な ど)	その他	購入しない	無回答
全体			400	88.5	2.5	0.8	1.5	1.0	2.0	0.3	0.3	3.3	-
性別	男性		255	86.7	2.7	1.2	1.6	0.8	2.4	0.4	0.4	3.9	-
	女性		145	91.7	2.1	-	1.4	1.4	1.4	-	-	2.1	-
年代	20代		19	94.7	-	-	-	-	-	-	-	5.3	-
	30代		34	97.1	2.9	-	-	-	-	-	-	-	-
	40代		100	81.0	3.0	1.0	2.0	2.0	3.0	-	-	8.0	-
	50代		122	89.3	0.8	1.6	0.8	0.8	2.5	0.8	-	3.3	-
	60代以上		125	90.4	4.0	-	2.4	0.8	1.6	-	0.8	-	-
性別 × 年代	男性計		255	86.7	2.7	1.2	1.6	0.8	2.4	0.4	0.4	3.9	-
	20代		10	90.0	-	-	-	-	-	-	-	10.0	-
	30代		14	92.9	7.1	-	-	-	-	-	-	-	-
	40代		55	78.2	3.6	1.8	1.8	1.8	3.6	-	-	9.1	-
	50代		83	85.5	1.2	2.4	1.2	1.2	2.4	1.2	-	4.8	-
	60代以上		93	91.4	3.2	-	2.2	-	2.2	-	1.1	-	-
	女性計		145	91.7	2.1	-	1.4	1.4	1.4	-	-	2.1	-
	20代		9	100.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	30代		20	100.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	40代		45	84.4	2.2	-	2.2	2.2	2.2	-	-	6.7	-
	50代		39	97.4	-	-	-	-	2.6	-	-	-	-
	60代以上		32	87.5	6.3	-	3.1	3.1	-	-	-	-	-
職業	会社員、公務員、団体職員		168	91.7	1.2	1.8	1.2	0.6	1.8	-	-	1.8	-
	派遣、契約社員、パート・アルバイト		80	87.5	2.5	-	1.3	1.3	2.5	1.3	-	3.8	-
	自営業、自由業、その他		32	81.3	-	-	-	3.1	6.3	-	3.1	6.3	-
	専業主婦・主夫		53	88.7	5.7	-	1.9	-	-	-	-	3.8	-
	学生、無職		67	85.1	4.5	-	3.0	1.5	1.5	-	-	4.5	-

(2) 購入時の重視点

□ Q13. 農畜産物を購入するとき、最も重視するものは何ですか。[単一回答]

1. 野菜・果実

「鮮度」が36.3%と最も高く、次いで「値段」が33.7%、「安全・安心」が20.7%となっています。

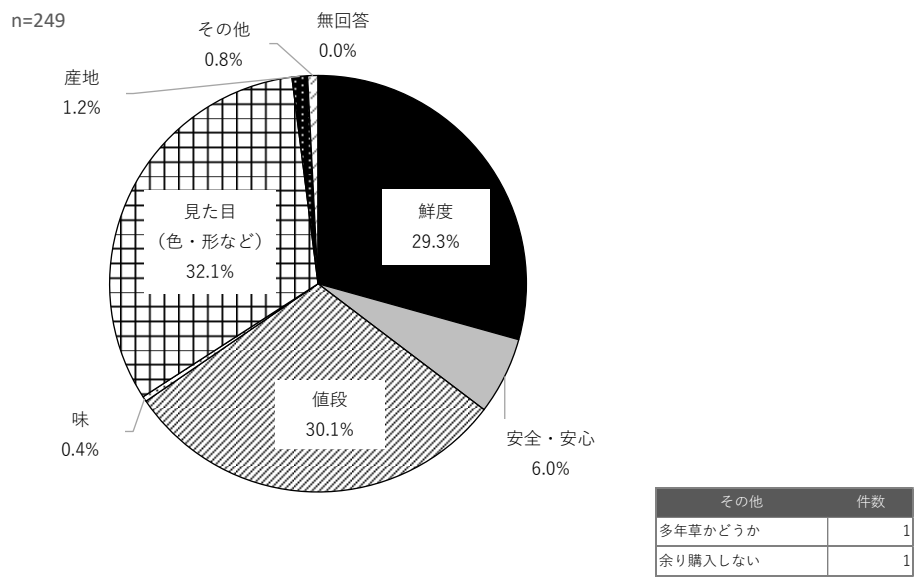


性別に見ると、「鮮度」は、女性の方が高くなっています。一方で、「値段」は、男性の方が高くなっています。

		全体 (実数)	購入時の重視点(野菜・果実)							
			鮮度	安全・安心	値段	味	見た目(色・ 形など)	産地	その他	無回答
(%)										
全体		386	36.3	20.7	33.7	5.2	2.6	1.6	-	-
性別	男性	243	32.1	20.6	37.0	6.6	2.1	1.6	-	-
	女性	143	43.4	21.0	28.0	2.8	3.5	1.4	-	-
年代	20代	18	5.6	11.1	77.8	-	5.6	-	-	-
	30代	34	44.1	11.8	29.4	8.8	5.9	-	-	-
	40代	93	36.6	24.7	28.0	5.4	3.2	2.2	-	-
	50代	117	34.2	20.5	35.0	6.0	2.6	1.7	-	-
	60代以上	124	40.3	21.8	31.5	4.0	0.8	1.6	-	-
性別 × 年代	男性計	243	32.1	20.6	37.0	6.6	2.1	1.6	-	-
	20代	9	11.1	11.1	77.8	-	-	-	-	-
	30代	14	35.7	14.3	28.6	14.3	7.1	-	-	-
	40代	49	30.6	26.5	28.6	8.2	4.1	2.0	-	-
	50代	78	28.2	17.9	42.3	7.7	1.3	2.6	-	-
	60代以上	93	37.6	21.5	34.4	4.3	1.1	1.1	-	-
	女性計	143	43.4	21.0	28.0	2.8	3.5	1.4	-	-
	20代	9	-	11.1	77.8	-	11.1	-	-	-
	30代	20	50.0	10.0	30.0	5.0	5.0	-	-	-
	40代	44	43.2	22.7	27.3	2.3	2.3	2.3	-	-
	50代	39	46.2	25.6	20.5	2.6	5.1	-	-	-
60代以上	31	48.4	22.6	22.6	3.2	-	3.2	-	-	
職業	会社員、公務員、団体職員	165	33.3	21.8	36.4	5.5	2.4	0.6	-	-
	派遣、契約社員、パート・アルバイト	75	45.3	21.3	26.7	2.7	2.7	1.3	-	-
	自営業、自由業、その他	29	34.5	13.8	31.0	13.8	-	6.9	-	-
	専業主婦・主夫	53	37.7	26.4	26.4	3.8	1.9	3.8	-	-
	学生、無職	64	32.8	15.6	42.2	4.7	4.7	-	-	-

2. 花き・・・観賞用に栽培される植物全般（切り花、鉢物など）

「見た目（色・形など）」が32.1%と最も高く、次いで「値段」が30.1%、「鮮度」が29.3%となっています。

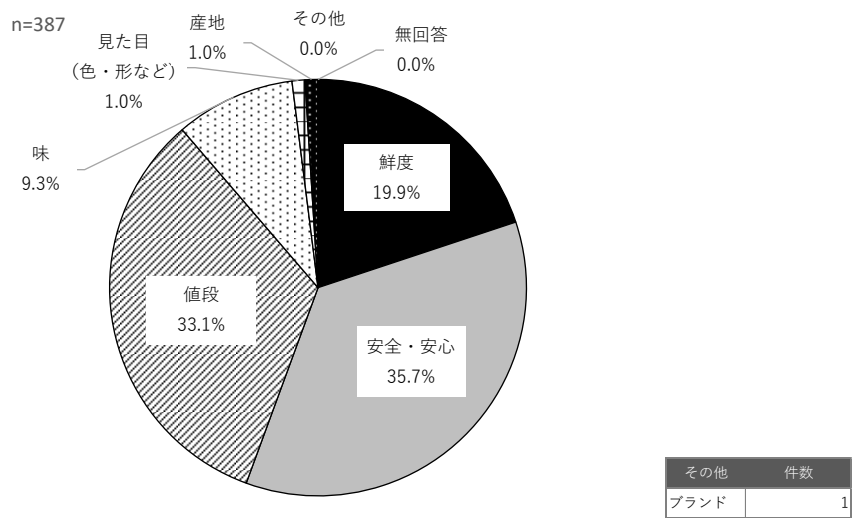


性別に見ると、「鮮度」は、女性の方が高くなっています。一方で、「値段」は、男性の方が高くなっています。

		全体 (実数)	購入時の重視点(花き)							
			鮮度	安全・安心	値段	味	見た目(色・形など)	産地	その他	無回答
全体		249	29.3	6.0	30.1	0.4	32.1	1.2	0.8	-
性別	男性	155	25.8	7.7	32.9	0.6	30.3	1.9	0.6	-
	女性	94	35.1	3.2	25.5	-	35.1	-	1.1	-
年代	20代	10	-	-	40.0	-	50.0	10.0	-	-
	30代	14	21.4	-	14.3	-	64.3	-	-	-
	40代	58	29.3	6.9	22.4	1.7	37.9	1.7	-	-
	50代	75	33.3	12.0	28.0	-	24.0	1.3	1.3	-
	60代以上	92	30.4	2.2	38.0	-	28.3	-	1.1	-
	男性計	155	25.8	7.7	32.9	0.6	30.3	1.9	0.6	-
性別 × 年代	20代	3	-	-	66.7	-	-	33.3	-	-
	30代	8	12.5	-	12.5	-	75.0	-	-	-
	40代	33	21.2	12.1	21.2	3.0	39.4	3.0	-	-
	50代	46	28.3	15.2	28.3	-	26.1	2.2	-	-
	60代以上	65	29.2	1.5	43.1	-	24.6	-	1.5	-
	女性計	94	35.1	3.2	25.5	-	35.1	-	1.1	-
	20代	7	-	-	28.6	-	71.4	-	-	-
	30代	6	33.3	-	16.7	-	50.0	-	-	-
	40代	25	40.0	-	24.0	-	36.0	-	-	-
	50代	29	41.4	6.9	27.6	-	20.7	-	3.4	-
職業	60代以上	27	33.3	3.7	25.9	-	37.0	-	-	-
	会社員、公務員、団体職員	98	25.5	9.2	28.6	1.0	35.7	-	-	-
	派遣、契約社員、パート・アルバイト	55	23.6	1.8	29.1	-	41.8	1.8	1.8	-
	自営業、自由業、その他	17	35.3	5.9	35.3	-	17.6	5.9	-	-
	専業主婦・主夫	38	42.1	7.9	26.3	-	21.1	2.6	-	-
学生、無職		41	31.7	2.4	36.6	-	26.8	-	2.4	-

3. 畜産加工品・・・肉・乳・卵などの畜産物を原料として、加工処理した食品（ハム、チーズなど）

「安全・安心」が35.7%と最も高く、次いで「値段」が33.1%、「鮮度」が19.9%となっています。



性別に見ると、「鮮度」は、女性の方が高くなっています。一方で、「値段」は、男性の方が高くなっています。

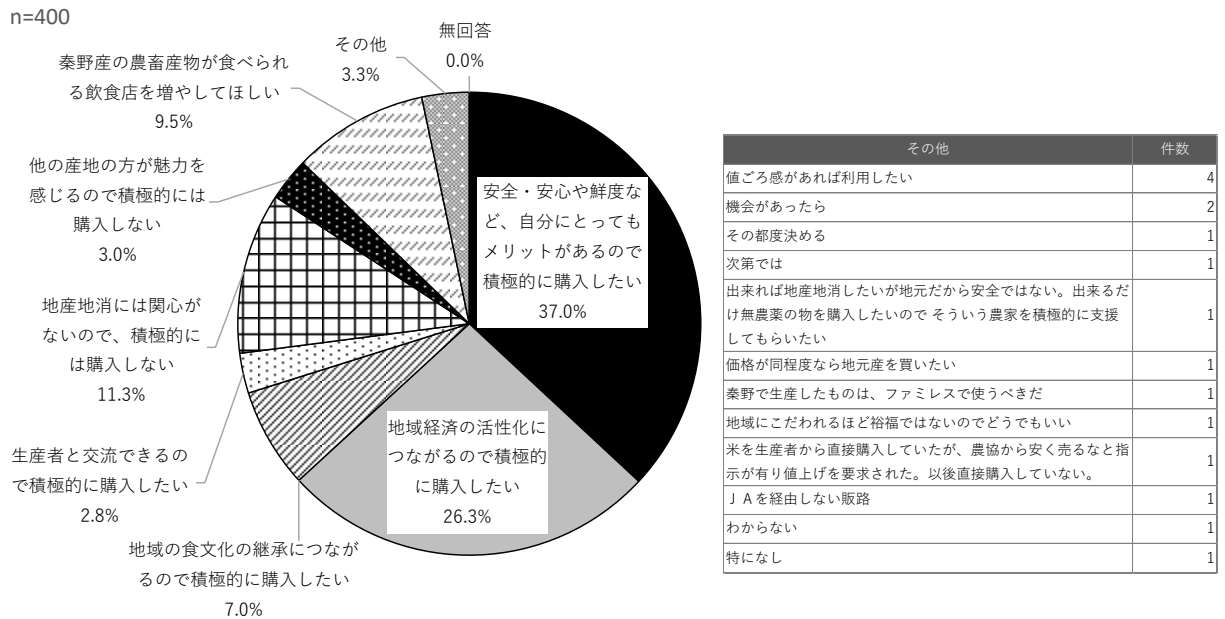
年代別に見ると、「値段」は、年代が上がるにつれて概ね低くなる傾向があります。

		全体 (実数)	購入時の重視点(畜産加工品)							
			鮮度	安全・安心	値段	味	見た目(色・ 形など)	産地	その他	無回答
全体		387	19.9	35.7	33.1	9.3	1.0	1.0	-	-
性別	男性	245	15.5	34.7	37.6	9.8	1.6	0.8	-	-
	女性	142	27.5	37.3	25.4	8.5	-	1.4	-	-
年代	20代	18	-	33.3	66.7	-	-	-	-	-
	30代	34	17.6	35.3	41.2	5.9	-	-	-	-
	40代	92	18.5	31.5	32.6	13.0	2.2	2.2	-	-
	50代	118	20.3	36.4	31.4	10.2	0.8	0.8	-	-
	60代以上	125	24.0	38.4	28.0	8.0	0.8	0.8	-	-
	男性計	245	15.5	34.7	37.6	9.8	1.6	0.8	-	-
性別 × 年代	20代	9	-	22.2	77.8	-	-	-	-	-
	30代	14	-	42.9	50.0	7.1	-	-	-	-
	40代	50	10.0	32.0	36.0	16.0	4.0	2.0	-	-
	50代	79	16.5	32.9	38.0	11.4	1.3	-	-	-
	60代以上	93	21.5	37.6	32.3	6.5	1.1	1.1	-	-
	女性計	142	27.5	37.3	25.4	8.5	-	1.4	-	-
	20代	9	-	44.4	55.6	-	-	-	-	-
	30代	20	30.0	30.0	35.0	5.0	-	-	-	-
	40代	42	28.6	31.0	28.6	9.5	-	2.4	-	-
	50代	39	28.2	43.6	17.9	7.7	-	2.6	-	-
	60代以上	32	31.3	40.6	15.6	12.5	-	-	-	-
職業	会社員、公務員、団体職員	165	15.2	33.9	37.6	11.5	1.8	-	-	-
	派遣、契約社員、パート・アルバイト	77	28.6	41.6	23.4	3.9	1.3	1.3	-	-
	自営業、自由業、その他	30	16.7	30.0	40.0	6.7	-	6.7	-	-
	専業主婦・主夫	51	23.5	39.2	21.6	13.7	-	2.0	-	-
	学生、無職	64	20.3	32.8	39.1	7.8	-	-	-	-

(3) 地産地消に関する考え方

「安全・安心や鮮度など、自分にとってもメリットがあるので積極的に購入したい」が37.0%と最も高く、次いで「地域経済の活性化につながるので積極的に購入したい」が26.3%、「地産地消には関心がないので、積極的に購入しない」が11.3%となっています。

□ Q14. 地産地消(地元で生産されたものを地元で消費すること)について、あなたの考えに最も近いものはどれですか。[単一回答]



性別に見ると、「安全・安心や鮮度など、自分にとってもメリットがあるので積極的に購入したい」は、女性の方が高くなっています。一方で、「地域の食文化の継承につながるので積極的に購入したい」は、男性の方が高くなっています。

		全体 (実数)	地産地消に関する考え方								その他	無回答
			安全・安心 や鮮度など、自分 にとってもメリ ットがあるので 積極的に購入した い	地域経済 の活性化につ ながるので積 極的に購入したい	地域の食 文化の継 承につなが るので積極 的に購入し たい	生産者と交 流できるの で積極的に 購入したい	地産地消に は関心がない ので、積 極的には購 入しない	他の産地 の方が魅 力を感じる ので積極 的に購入 しない	秦野産の 農畜産物 が食べられ る飲食店を 増やしてほ しい			
全体		400	37.0	26.3	7.0	2.8	11.3	3.0	9.5	3.3	-	
性別	男性	255	30.2	27.5	9.8	3.9	12.9	1.6	10.2	3.9	-	
	女性	145	49.0	24.1	2.1	0.7	8.3	5.5	8.3	2.1	-	
年代	20代	19	31.6	10.5	5.3	5.3	26.3	5.3	15.8	-	-	
	30代	34	35.3	26.5	5.9	-	8.8	5.9	8.8	8.8	-	
	40代	100	33.0	30.0	9.0	2.0	11.0	3.0	11.0	1.0	-	
	50代	122	36.9	25.4	4.9	4.9	13.9	1.6	10.7	1.6	-	
	60代以上	125	41.6	26.4	8.0	1.6	7.2	3.2	6.4	5.6	-	
性別 × 年代	男性計	255	30.2	27.5	9.8	3.9	12.9	1.6	10.2	3.9	-	
	20代	10	30.0	10.0	10.0	-	20.0	10.0	20.0	-	-	
	30代	14	28.6	35.7	14.3	-	7.1	-	-	14.3	-	
	40代	55	23.6	29.1	16.4	3.6	10.9	-	14.5	1.8	-	
	50代	83	30.1	26.5	4.8	7.2	19.3	-	10.8	1.2	-	
	60代以上	93	34.4	28.0	9.7	2.2	8.6	3.2	7.5	6.5	-	
	女性計	145	49.0	24.1	2.1	0.7	8.3	5.5	8.3	2.1	-	
	20代	9	33.3	11.1	-	11.1	33.3	-	11.1	-	-	
	30代	20	40.0	20.0	-	-	10.0	10.0	15.0	5.0	-	
	40代	45	44.4	31.1	-	-	11.1	6.7	6.7	-	-	
	50代	39	51.3	23.1	5.1	-	2.6	5.1	10.3	2.6	-	
	60代以上	32	62.5	21.9	3.1	-	3.1	3.1	3.1	3.1	-	
職業	会社員、公務員、団体職員	168	30.4	31.0	8.9	4.2	11.3	1.2	10.1	3.0	-	
	派遣、契約社員、パート・アルバイト	80	33.8	23.8	6.3	-	16.3	6.3	11.3	2.5	-	
	自営業、自由業、その他	32	40.6	12.5	6.3	6.3	18.8	3.1	3.1	9.4	-	
	専業主婦・主夫	53	49.1	28.3	1.9	1.9	1.9	3.8	9.4	3.8	-	
	学生、無職	67	46.3	22.4	7.5	1.5	9.0	3.0	9.0	1.5	-	

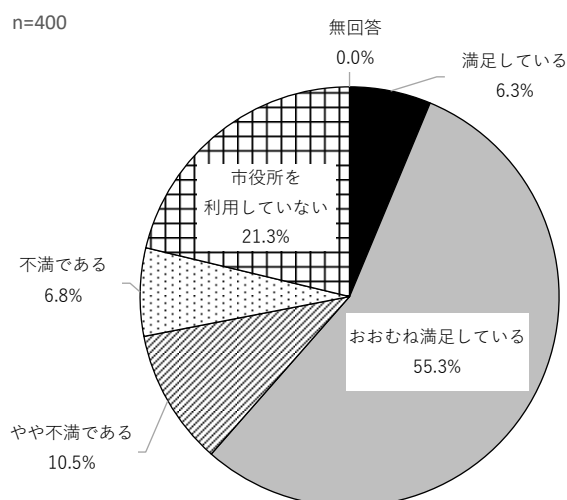
6 市役所職員の対応

質の高い行政サービスを安定して提供するため、秦野市役所職員の窓口や電話での対応に対する、市民の満足度を調査するものです。

(1) 市役所職員の対応の満足度

「満足している」、「おおむね満足している」と合わせて約 61.6%となっています。一方、「やや不満である」、「不満である」と合わせて約 17.3%となっています。

□ Q15. 市役所職員の窓口や電話での対応に満足していますか。[単一回答]



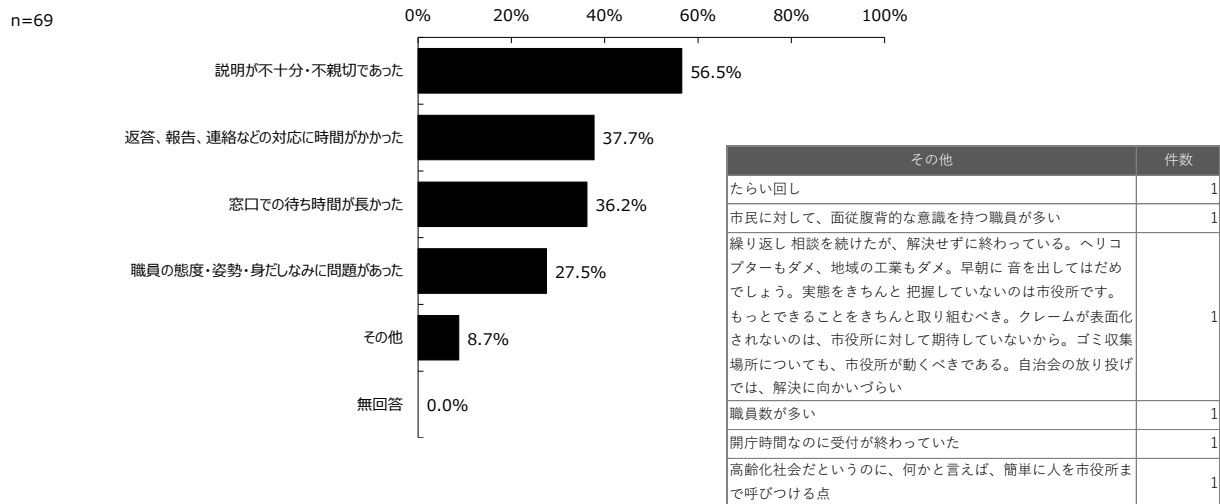
性別に見ると、「満足している」、「おおむね満足している」を合わせると男性の方が高くなっています。

		全体 (実数)	市役所職員の対応の満足度					
			満足している	おおむね満足している	やや不満である	不満である	市役所を利用していない	無回答
(%)								
全体		400	6.3	55.3	10.5	6.8	21.3	-
性別	男性	255	6.7	57.3	9.8	6.7	19.6	-
	女性	145	5.5	51.7	11.7	6.9	24.1	-
年代	20代	19	21.1	31.6	10.5	-	36.8	-
	30代	34	2.9	58.8	11.8	8.8	17.6	-
	40代	100	8.0	45.0	10.0	8.0	29.0	-
	50代	122	3.3	58.2	9.0	6.6	23.0	-
	60代以上	125	6.4	63.2	12.0	6.4	12.0	-
性別 × 年代	男性計	255	6.7	57.3	9.8	6.7	19.6	-
	20代	10	20.0	40.0	10.0	-	30.0	-
	30代	14	-	64.3	7.1	7.1	21.4	-
	40代	55	10.9	50.9	7.3	3.6	27.3	-
	50代	83	3.6	55.4	8.4	7.2	25.3	-
	60代以上	93	6.5	63.4	12.9	8.6	8.6	-
	女性計	145	5.5	51.7	11.7	6.9	24.1	-
	20代	9	22.2	22.2	11.1	-	44.4	-
	30代	20	5.0	55.0	15.0	10.0	15.0	-
	40代	45	4.4	37.8	13.3	13.3	31.1	-
職業	会社員、公務員、団体職員	168	5.4	56.0	6.0	6.5	26.2	-
	派遣、契約社員、パート・アルバイト	80	6.3	50.0	16.3	8.8	18.8	-
	自営業、自由業、その他	32	3.1	50.0	15.6	12.5	18.8	-
	専業主婦・主夫	53	3.8	64.2	11.3	3.8	17.0	-
	学生、無職	67	11.9	55.2	11.9	4.5	16.4	-

(2) 不満である理由

「説明が不十分・不親切であった」が56.5%と最も高く、次いで「返答、報告、連絡などの対応に時間がかかった」が37.7%、「窓口での待ち時間が長かった」が36.2%となっています。

□ Q16. Q15 で「やや不満である」または「不満である」を選択した方にお聞きます。あなたがそう思う理由は何ですか。[複数回答]



性別に見ると、「職員の態度・姿勢・身だしなみに問題があった」、「返答、報告、連絡などの対応に時間がかかった」は、女性の方が高くなっています。

		全体 (実数)	不満である理由					無回答
			説明が不 十分・不親 切であった	返答、報 告、連絡な どの対応に 時間がか かった	窓口での待 ち時間が長 かった	職員の態 度・姿勢・ 身だしなみ に問題があ った	その他	
(%)								
全体		69	56.5	37.7	36.2	27.5	8.7	-
性別	男性	42	54.8	35.7	35.7	21.4	14.3	-
	女性	27	59.3	40.7	37.0	37.0	-	-
年代	20代	2	100.0	100.0	50.0	-	-	-
	30代	7	71.4	57.1	42.9	28.6	14.3	-
	40代	18	55.6	22.2	33.3	38.9	11.1	-
	50代	19	63.2	42.1	57.9	10.5	5.3	-
	60代以上	23	43.5	34.8	17.4	34.8	8.7	-
性別 × 年代	男性計	42	54.8	35.7	35.7	21.4	14.3	-
	20代	1	100.0	100.0	-	-	-	-
	30代	2	100.0	100.0	50.0	-	50.0	-
	40代	6	50.0	-	33.3	16.7	33.3	-
	50代	13	69.2	38.5	61.5	-	7.7	-
	60代以上	20	40.0	35.0	20.0	40.0	10.0	-
	女性計	27	59.3	40.7	37.0	37.0	-	-
	20代	1	100.0	100.0	100.0	-	-	-
	30代	5	60.0	40.0	40.0	40.0	-	-
	40代	12	58.3	33.3	33.3	50.0	-	-
	50代	6	50.0	50.0	50.0	33.3	-	-
60代以上	3	66.7	33.3	-	-	-	-	
職業	会社員、公務員、団体職員	21	61.9	28.6	33.3	38.1	9.5	-
	派遣、契約社員、パート・アルバイト	20	40.0	30.0	40.0	25.0	5.0	-
	自営業、自由業、その他	9	77.8	44.4	44.4	11.1	33.3	-
	専業主婦・主夫	8	62.5	75.0	37.5	25.0	-	-
	学生、無職	11	54.5	36.4	27.3	27.3	-	-

7 生物多様性

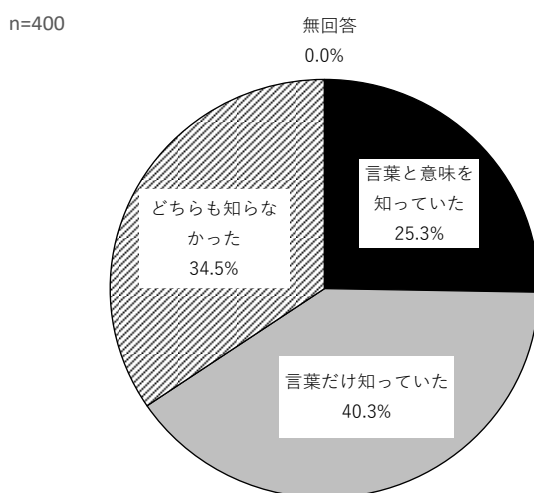
「第3次秦野市環境基本計画」の改訂に伴い、今後の生物多様性※の保全に向けた施策を検討するため、その認知度について調査するものです。

※様々な生きものが、異なる環境で自分たちの生きる場所を見つけ、互いに違いを活かしながら、つながり調和していること。

(1) 「生物多様性」の認知度

「言葉と意味を知っていた」が25.3%、一方で「言葉だけ知っていた」が40.3%となっています。

□ Q17.「生物多様性」という言葉と意味を知っていましたか。[単一回答]



性別に見ると、「どちらも知らなかった」は、女性の方が高くなっています。一方で、「言葉と意味を知っていた」は、男性の方が高くなっています。

		全体 (実数)	「生物多様性」の認知度			
			言葉と意味 を知っていた	言葉だけ 知っていた	どちらも知 らなかった	無回答
全体		400	25.3	40.3	34.5	
性別	男性	255	28.6	41.6	29.8	-
	女性	145	19.3	37.9	42.8	-
年代	20代	19	26.3	36.8	36.8	-
	30代	34	23.5	47.1	29.4	-
	40代	100	29.0	37.0	34.0	-
	50代	122	18.9	40.2	41.0	-
	60代以上	125	28.8	41.6	29.6	-
性別 × 年代	男性計	255	28.6	41.6	29.8	-
	20代	10	30.0	30.0	40.0	-
	30代	14	28.6	57.1	14.3	-
	40代	55	38.2	36.4	25.5	-
	50代	83	19.3	45.8	34.9	-
	60代以上	93	31.2	39.8	29.0	-
	女性計	145	19.3	37.9	42.8	-
	20代	9	22.2	44.4	33.3	-
	30代	20	20.0	40.0	40.0	-
	40代	45	17.8	37.8	44.4	-
職業	会社員、公務員、団体職員	168	23.2	44.6	32.1	-
	派遣、契約社員、パート・アルバイト	80	21.3	35.0	43.8	-
	自営業、自由業、その他	32	37.5	37.5	25.0	-
	専業主婦・主夫	53	24.5	37.7	37.7	-
	学生、無職	67	29.9	38.8	31.3	-

8 地球温暖化対策

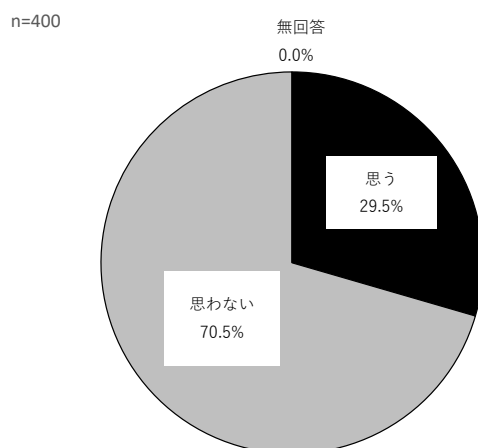
地球温暖化に対応していくため、市民の地球温暖化対策やライフスタイルシフト※についての意識を調査するものです。

※これまでの「大量生産・大量消費・大量廃棄」型のライフスタイルから、日々の暮らしの中で廃棄物を減らし、資源循環や自然資源を大事にするライフスタイルに変えていくこと。

(1) 気候変動に対するリスクヘッジ

「思う」が29.5%、一方で「思わない」が70.5%となっています。

□ Q18. 集中豪雨や猛暑など気候変動に対するリスクに備えられていると思いますか。[単一回答]



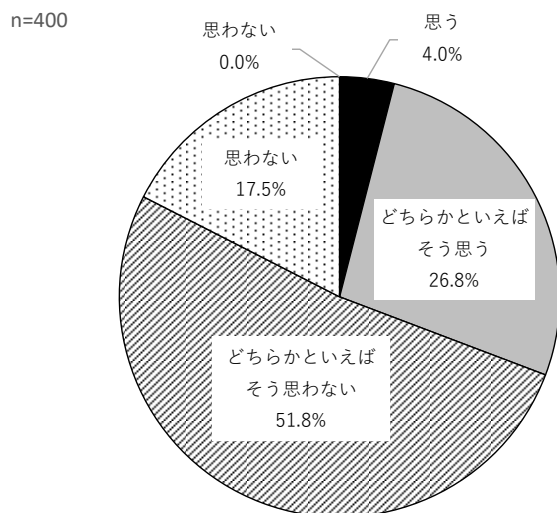
性別に見ると、「思う」は、男性の方が高くなっています。

		(%)	全体 (実数)	気候変動に対するリスクヘッジ		
				思う	思わない	無回答
全体			400	29.5	70.5	-
性別	男性		255	33.7	66.3	-
	女性		145	22.1	77.9	-
年代	20代		19	31.6	68.4	-
	30代		34	26.5	73.5	-
	40代		100	30.0	70.0	-
	50代		122	23.0	77.0	-
	60代以上		125	36.0	64.0	-
	男性計		255	33.7	66.3	-
性別 × 年代	20代		10	30.0	70.0	-
	30代		14	28.6	71.4	-
	40代		55	34.5	65.5	-
	50代		83	27.7	72.3	-
	60代以上		93	39.8	60.2	-
	女性計		145	22.1	77.9	-
	20代		9	33.3	66.7	-
	30代		20	25.0	75.0	-
	40代		45	24.4	75.6	-
	50代		39	12.8	87.2	-
	60代以上		32	25.0	75.0	-
職業	会社員、公務員、団体職員		168	31.0	69.0	-
	派遣、契約社員、パート・アルバイト		80	25.0	75.0	-
	自営業、自由業、その他		32	37.5	62.5	-
	専業主婦・主夫		53	22.6	77.4	-
	学生、無職		67	32.8	67.2	-

(2) 地球温暖化対策やライフスタイルシフトに関する情報の浸透度

「思う」、「どちらかといえばそう思う」と合わせて約 30.8%となっています。一方、「どちらかといえばそう思わない」、「思わない」と合わせて約 69.3%となっています。

□ Q19. 地球温暖化対策やライフスタイルシフトに関する情報が広く届いていると思いますか。【単一回答】



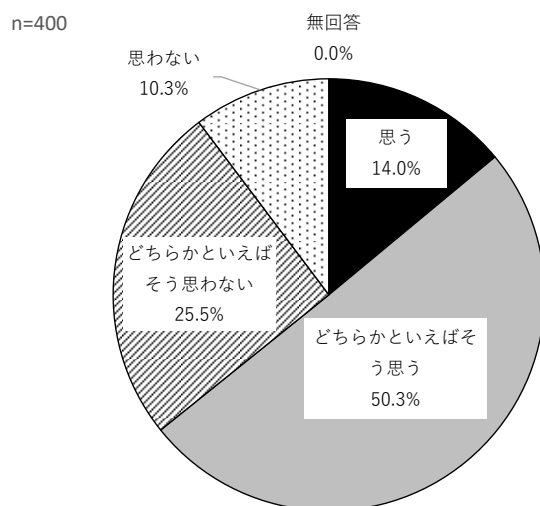
性別に見ると、「思う」、「どちらかといえばそう思う」を合わせると男性の方が高くなっています。

		全体 (実数)	地球温暖化対策やライフスタイルシフトに関する情報の浸透度				
			思う	どちらかと いえばそう 思う	どちらかと いえばそう 思わない	思わない	無回答
(%)							
全体		400	4.0	26.8	51.8	17.5	
性別	男性	255	5.5	28.6	47.5	18.4	-
	女性	145	1.4	23.4	59.3	15.9	-
年代	20代	19	5.3	15.8	52.6	26.3	-
	30代	34	2.9	32.4	44.1	20.6	-
	40代	100	4.0	26.0	50.0	20.0	-
	50代	122	2.5	26.2	54.1	17.2	-
	60代以上	125	5.6	28.0	52.8	13.6	-
性別 × 年代	男性計	255	5.5	28.6	47.5	18.4	-
	20代	10	10.0	20.0	50.0	20.0	-
	30代	14	-	42.9	42.9	14.3	-
	40代	55	7.3	25.5	43.6	23.6	-
	50代	83	3.6	27.7	50.6	18.1	-
	60代以上	93	6.5	30.1	47.3	16.1	-
	女性計	145	1.4	23.4	59.3	15.9	-
	20代	9	-	11.1	55.6	33.3	-
	30代	20	5.0	25.0	45.0	25.0	-
	40代	45	-	26.7	57.8	15.6	-
	50代	39	-	23.1	61.5	15.4	-
	60代以上	32	3.1	21.9	68.8	6.3	-
職業	会社員、公務員、団体職員	168	4.2	25.0	53.6	17.3	-
	派遣、契約社員、パート・アルバイト	80	6.3	25.0	51.3	17.5	-
	自営業、自由業、その他	32	-	28.1	40.6	31.3	-
	専業主婦・主夫	53	-	30.2	60.4	9.4	-
	学生、無職	67	6.0	29.9	46.3	17.9	-

(3) 暮らしにもたらす豊かさ

「思う」、「どちらかといえばそう思う」と合わせて約 64.3%となっています。一方、「どちらかといえばそう思わない」、「思わない」と合わせて約 35.8%となっています。

□ Q20. 地球温暖化対策やライフスタイルシフトを行うことがこれからの暮らしを豊かにしていくと感じますか。【単一回答】



性別に見ると、「思う」、「どちらかといえばそう思う」を合わせると女性の方が高くなっています。

		全体 (実数)	暮らしにもたらす豊かさ				
			思う	どちらかとい えばそう 思う	どちらかとい えばそう 思わない	思わない	無回答
		(%)					
全体		400	14.0	50.3	25.5	10.3	-
性別	男性	255	12.9	47.8	27.8	11.4	-
	女性	145	15.9	54.5	21.4	8.3	-
年代	20代	19	15.8	36.8	21.1	26.3	-
	30代	34	20.6	35.3	26.5	17.6	-
	40代	100	17.0	50.0	25.0	8.0	-
	50代	122	8.2	53.3	27.9	10.7	-
	60代以上	125	15.2	53.6	24.0	7.2	-
	男性計	255	12.9	47.8	27.8	11.4	-
性別 × 年代	20代	10	10.0	30.0	30.0	30.0	-
	30代	14	21.4	42.9	28.6	7.1	-
	40代	55	18.2	43.6	27.3	10.9	-
	50代	83	7.2	48.2	31.3	13.3	-
	60代以上	93	14.0	52.7	24.7	8.6	-
	女性計	145	15.9	54.5	21.4	8.3	-
	20代	9	22.2	44.4	11.1	22.2	-
	30代	20	20.0	30.0	25.0	25.0	-
	40代	45	15.6	57.8	22.2	4.4	-
	50代	39	10.3	64.1	20.5	5.1	-
	60代以上	32	18.8	56.3	21.9	3.1	-
職業	会社員、公務員、団体職員	168	11.9	47.0	29.8	11.3	-
	派遣、契約社員、パート・アルバイト	80	16.3	51.3	23.8	8.8	-
	自営業、自由業、その他	32	12.5	46.9	25.0	15.6	-
	専業主婦・主夫	53	17.0	54.7	24.5	3.8	-
	学生、無職	67	14.9	55.2	17.9	11.9	-